

基礎目標	幸せを感じる暮らしをつくる	第1四半期
------	---------------	-------

重要目標達成指標・KGI		合計特殊出生率		基準値：1.35		目標値：1.50		実績値：1.11	
		20～30 歳代の移住者		基準値：一組		目標値：100 組		実績値：87 組	
区分	成果指標・KPI		単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期		
成果指標	「幸せな暮らしとを感じる人」の割合		%	82.0	90.0	85.3(R6)	△1.4		
政策 1	①年間出生数（4～3 月）		人	109	120	（4-6 月）15	△12		
	②人口の社会動態（20～30 代）		人	△92	△50	（4-6 月）7	+28		
政策 2	①メタボ予備軍の割合		%	11.1	10.5	11.8(R6)	+0.7		
政策 3	①生活支援組織づくり		組織	0	3	1	+1		
	②教室・サロン参加者実人数		人	342	410	395	+53		
	③センター新規相談者数		人	21	30	7	+3		
	④福祉に関する総合窓口の設置		—	未設置	設置	設置	設置		
政策 4	①EV 等保有台数		台	49	120	109(R6)	+8		
	②里山整備個所数		ヶ所	36	42	44	+3		
	環境保全実施面積		%	75	81.0	81.0	±0		
	③1 人 1 日当たり家庭系ごみ排出量		g	421	350	440(R6)	+6		
	リサイクル率		%	28	35.0	25.0(R6)	△2.4		
政策 5	①自治会（地区）の防災計画策定		自治会	1	4	3	±0		
	②刑法犯発生件数		件	68	45	24	△7		
	交通事故発生件数（人身）		件	17	15	6	△4		
	特殊詐欺発生件数		件	0	0	1	+1		

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
1 ①婚活支援として、社協による『ましこ de 友活』を実施。男性応募が100人、女性17人あり抽選で参加者を絞る。当日は男性10人女性7人の参加でフレンド成立は8組であった。ましこココハウスの充実として、親子ヨガ、乳幼児リトミックましこコッチの実施。子育て世代への支援として、若者定住奨励金7件、家賃補助：4件、学校給食の補助児童500円/月・生徒600円/月を実施。 ②奨学金返還支援事業を広報紙・HPで周知し、申請が1件。ましこの暮らしを体験するためのお試し住宅利用は1件、オーダーメイドツアー利用は1件、であった。移住相談は27件、空き家バンクの登録3件・成約2件。 2 ①健診対象者に通知による受診勧奨を実施。健康デー：114名、個別栄養、運動相談：9名、健康教室：55名。 3 ①民生委員・民生児童委員と町長との懇談会を実施し、助け合い・支え合いに係る意見を聞く。 ②サロンへの補助金交付、新規サロンオープンに向けての調整を行った。地域包括ケアシステム推進のためネットワーク連絡会を開催。 ③県等主催事業を事業者案内し、また、各学習会に職員を派遣した。 4 ①木材コーディネーターによる高峠町有林視察、木材利用促進協定の締結。 ②多面的機能支払交付金組織、環境保全活動への指導・助言の実施。 ③環境美化運動、ステーション設置補助の実施。 5 ①移動式トイレや組み立て式シャワーの導入。 ②4小学校の1日入学時の案内通知により、今年度のスクールガードは52名、平均年齢62歳。	1 ①婚活支援については、友達作りとして昨年度から募集をかけているが、今回は女性の申し込みが過去最高となった。フレンド成立は最大3名までとしており今後も継続していく。また、県・真岡市・上三川町・益子町合同で広域婚活イベントを検討中。『ましこコッチ』の対象児童を、1歳以上から歩き出した子についても対象とし、参加増につなげていく。子育て世帯の経済的負担軽減のため学校給食費の一部補助を継続していく。 ②奨学金返還支援は、今年度からの事業であり、今後更に周知を進めていく。お試し住宅は、予約問合せが増えているもののキャンセルによる空室状況が継続した。引き続き周知を図り、利用促進を図る。 2 ①望ましい食生活や運動習慣の定着に向けて、専門職種が連携し、町民に寄り添った効果的な支援を実施していく。 3 ①社会福祉協議会による生活支援『ちょいボラましこ』を推進していく。 ②ネットワーク連絡会により、在宅医療・介護連携事業として、芳賀郡医師会等と研修会や住民公開講座の開催準備をしていく。 ③支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努める。 4 ①町有林の町内公共施設等の木質化への活用、伐採木の無償配布を検討していく。 ②森林管理計画の効率的な推進のため、境界確認のための機材等の導入を検討する。 5 ①今後も避難者の安全管理と快適性向上を図る。 ②子や孫が新1年生で加入してくれる方が多い。引き続き新規登録者確保に取り組んでいく。

基礎目標	幸せを感じる暮らしをつくる	第2四半期
------	---------------	-------

重要目標達成指標・KGI	合計特殊出生率	基準値：1.35		目標値：1.50	実績値：1.11	
	20～30歳代の移住者	基準値：一組		目標値：100組	実績値：93組	
区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	「幸せな暮らしと感じる人」の割合	%	82.0	90.0	85.3(R6)	△1.4
政策1	①年間出生数（4～3月）	人	109	120	(4-9月)33	△19
	②人口の社会動態（20～30代）	人	△92	△50	(4-9月)△86	△45
政策2	①メタボ予備軍の割合	%	11.1	10.5	12.1(R6暫)	+1.0
政策3	①生活支援組織づくり	組織	0	3	1	+1
	②教室・サロン参加者実人数	人	342	410	400	+70
	③センター新規相談者数	人	21	30	11	+4
	④福祉に関する総合窓口の設置	—	未設置	設置	設置	設置
政策4	①EV等保有台数	台	49	120	109(R6)	+8
	②里山整備個所数	ヶ所	36	42	44	+3
	環境保全実施面積	%	75	81.0	81.0	±0
	③1人1日当たり家庭系ごみ排出量	g	421	350	440(R6)	+6
	リサイクル率	%	28	35.0	25.0(R6)	△2.4
政策5	①自治会（地区）の防災計画策定	自治会	1	4	4	+1
	②刑法犯発生件数	件	68	45	39	△16
	交通事故発生件数（人身）	件	17	15	13	△1
	特殊詐欺発生件数	件	0	0	1	+1

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
1 ①みんなで子育てをするまちの実現として、小宅古墳群で「竹を使ったあそび教室」、中学校での思春期教室（生徒90名）、ましこココハウスでの季節イベント夏まつりを実施した。また、子育て世代への支援として、若者定住奨励金7件、家賃補助2件、学校給食の補助児童500円/月・生徒600円/月を実施。 ②若者のU I Jターンの推進として、奨学金返還支援事業を広報紙・HPで周知し申請が1件。ましこの暮らしを体験するためのお試し住宅利用は2件、オーダーメイドツアー利用は3件、であった。移住相談は50件、空き家バンクの登録6件・成約2件。 2 ①ライフステージに応じた健康づくりの推進として、健診をきっかけとした健康意啓発のため健診対象者に通知による受診勧奨を実施。健康教室は、医師・栄養士による講話を実施。健康デー：132名、個別栄養、運動相談：17名。 3 ①地域福祉の推進のため、住民参加型の生活支援『ちょいボラましこ』を推進。活用実績は9件。 ②高齢者の生きがいづくり推進として、シルバー人材センターと意見交換をし、訪問型サービス事業の実施のための研修会を実施した。また、日常生活支援体制づくりに関しては、生活支援コーディネーターとの情報共有・意見交換を実施。 4 ①脱炭素の推進として、小学校において気候変動に関する教室、水生生物調査を実施。 ②農山村の景観維持として、地元森づくり団体に前沢町有林を見学してもらい意見交換をした。 5 ①日常を守る災害対策の推進として、地区防災計画策定支援をし、城内自治会で策定完了した。 ②通学路の危険な箇所点検を各学校等に依頼。	1 ①思春期教室については、全中学校で実施をしていきたい。また、出会いの場の創出のため県・真岡市・上三川町・益子町で広域婚活イベントを開催していく。ましこココハウスのイベントでは、高校生、オピニオンリーダーの協力により多世代交流を実施できた。今後も高校生と幼児のふれあい創出の機会を設けていく。また、移住定住に係る補助制度について、他自治体の取組を調査し、本町の移住に係る制度内容の充実につとめる。 ②奨学金返還支援は、更に周知を進めていく。お試し住宅・オーダーメイドツアーともに利用が継続的であった。移住相談の延長上でオーダーメイドツアーに繋がるため、引き続き丁寧な対応に努める。また、空き家バンク相談会を実施し、当日の参加者（7名）が全て申請に至り、着実な登録促進に繋がったため、今後も継続して取り組む。 2 ①今後も専門職種が連携した健康教室を実施し、健康意識の向上に努める。 3 ②日常生活支援体制づくり推進のため、先進地視察研修を実施することとした。また、今後、在宅医療・介護連携事業として、住民向け講演会「人生会議」の実施に向け周知広報を行う。 4 ①今後学校でも環境分野の学習導入を推進してもらうため、学校教職員向けの学習会を実施。 ②町有林については、引き続き整備方法等を検討していく。また、スマート林業についてもリモートセンシング研修等などを通して検討していく。 5 ①策定した地区防災計画については、今後も修正等があれば、自治会と調整していく。 ②今後、町通学路安全対策会議を開催し、様々な立場の方の意見を聴き、通学路の現状把握に努める。

基礎目標	幸せを感じる暮らしをつくる	第3四半期
------	---------------	-------

重要目標達成指標・KGI		合計特殊出生率		基準値：1.35		目標値：1.50		実績値：1.11	
		20～30 歳代の移住者		基準値：一組		目標値：100 組		実績値：98 組	
区分	成果指標・KPI			単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期	
成果指標	「幸せな暮らしと感じる人」の割合			%	82.0	90.0	85.3 (R6)	△1.4	
政策 1	①年間出生数（4～3 月）			人	109	120	(4-12 月)50	△17	
	②人口の社会動態（20～30 代）			人	△92	△50	(4-12 月)△94	△68	
政策 2	①メタボ予備軍の割合			%	11.1	10.5	12.1 (R6)	+1.0	
政策 3	①生活支援組織づくり			組織	0	3	1	+1	
	②教室・サロン参加者実人数			人	342	410	419	+86	
	③センター新規相談者数			人	21	30	11	+4	
	④福祉に関する総合窓口の設置			—	未設置	設置	設置	設置	
政策 4	①EV 等保有台数			台	49	120	109 (R6)	+8	
	②里山整備個所数			ヶ所	36	42	44	+3	
	環境保全実施面積			%	75	81.0	81.0	±0	
	③1 人 1 日当たり家庭系ごみ排出量			g	421	350	440 (R6)	+6	
	リサイクル率			%	28	35.0	25.0 (R6)	△2.4	
政策 5	①自治会（地区）の防災計画策定			自治会	1	4	4	+1	
	②刑法犯発生件数			件	68	45	70	△10	
	交通事故発生件数（人身）			件	17	15	16	△6	
	特殊詐欺発生件数			件	0	0	1	±0	

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
1 ①みんなで子育てするまちの実現のため、ましこコッポハウス利用促進を図り実績は1,928人、また中学校での思春期教室（生徒25名）を実施。子育て世代への支援として、子育て応援手当の支給、若者定住奨励金5件、家賃補助1件、学校給食の補助を物価高騰分を上乗せして実施した。 ②今期お試し住宅の利用はなく、オーダーメイドツアー利用は2件、移住相談は32件、空き家バンクの登録7件・成約4件。真岡市×益子移住オンラインセミナーを実施し参加者は14名。地域留学情報発信、アンバサダー制度設計を実施。 2 ①ライフステージに応じた健康づくりの推進として、健診結果説明会での適正体重や生活習慣の指導を実施。健康教室では、医師・栄養士による講話を実施。健康デー：89名、個別栄養、運動相談：12名、健康まつり180名。 3 ①民生委員会議の開催、及び住民参加型の生活支援『ちょいボラましこ』を推進し活用実績11件。 ②高齢者の生きがいづくり推進として、シルバー人材センターと意見交換、いきいきクラブ活動に係る相談対応をした。また、日常生活支援体制づくりに関しては、生活支援コーディネーターとの情報共有・意見交換を実施。 4 ①郡内中学教諭研修会や小学生の総合的学習で環境施策の講座や水生生物調査を実施。町民まつりではEV車を展示しゼロカーボン普及を図る。 ②農山村の景観維持として、木材コーディネーターと打合せを実施。 5 ①日常を守る災害対策の推進として、今後の資機材、備蓄品の検討。 ②防犯灯設置14基、防犯パトロール等の実施。	1 ①思春期教室については、次期も予定し全中学校で実施していく。ましこコッチの利用は安定しているが、ファミリーサポートセンター利用は1回に留まっているためPRを継続する。また、移住定住に係る家賃補助について、自治会加入辞退による決定取り消しがあり、自治会加入のハードルが高いと感じる。交付要件の見直しをしていく。 ②お試し住宅の今期利用はなかった。運用方法について検討していきたい。近隣市町との連携による移住セミナーを実施については、今後も継続し参加者を伸ばしていく。地域留学では1月から4名が活動を開始する。活動先については増やすことができているが、窯業や農業など様々な活動場所の開拓を進めていきたい。 2 ①今後も専門職種が連携した健康教室を実施し、町民に寄り添った効果的支援を行っていく。 3 ①福祉まつりでは、民生委員活動の周知を行った。今後も地域福祉も理解を得るため継続する。 ②いきいきクラブ活動支援として、次期において真岡線利用、町有バス利用の調整行い、次年度活動に繋げる。在宅医療・介護連携事業として、多職種研修、住民公開講座等に関し医師会と連携し事業を継続して推進する。 4 ①学校教諭に向け講座実施により、生ごみ堆肥の学校利用に繋がった。今後も環境分野の学習導入を推進するため、講座受け入れを積極的に行う。 ②高峠町有林の間伐材活用（公共建築物利用）のため引き続き関係機関との連携を図っていく。 5 ①備蓄品等整備の目標を達成したため、今後、更なる充実に向けての整備内容を検討していく。 ②防犯灯設置や防犯パトロールの継続は犯罪抑制効果に繋がるので、今後も継続していきたい。

基礎目標	幸せを感じる暮らしをつくる	第4四半期
------	---------------	-------

重要目標達成指標・KGI		合計特殊出生率		基準値：1.35		目標値：1.50		実績値：1.13	
		20～30 歳代の移住者		基準値：一組		目標値：100 組		実績値：107 組	
区分	成果指標・KPI			単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期	
成果指標	「幸せな暮らしとを感じる人」の割合			%	82.0	90.0	86.7	+1.4	
政策 1	①年間出生数（4～3 月）			人	109	120	76	△9	
	②人口の社会動態（20～30 代）			人	△92	△50	△127	△93	
政策 2	①メタボ予備軍の割合			%	11.1	10.5	12.1	+0.3	
政策 3	①生活支援組織づくり			組織	0	3	1	±0	
	②教室・サロン参加者実人数			人	342	410	419	+86	
	③センター新規相談者数			人	21	30	21	+2	
	④福祉に関する総合窓口の設置			—	未設置	設置	設置	設置	
政策 4	①EV 等保有台数			台	49	120	121	+12	
	②里山整備個所数			ヶ所	36	42	47	+3	
	環境保全実施面積			%	75	81.0	81.0	±0	
	③1 人 1 日当たり家庭系ごみ排出量			g	421	350	436	△4	
	リサイクル率			%	28	35.0	23.2	△1.8	
政策 5	①自治会（地区）の防災計画策定			自治会	1	4	5	+2	
	②刑法犯発生件数			件	68	45	75	△14	
	交通事故発生件数（人身）			件	17	15	17	△6	
	特殊詐欺発生件数			件	0	0	1	±0	

実施内容・成果の総括	以降の方針
1 ①夕刻結婚相談会を実施したが、相談者が無かった。ましこココハウス利用者：8,774名（内自習室342名）。ファミサポ：利用回数4回。若者定住奨励金申請：24件、家賃補助申請：8件。 ②お試し住宅：4件。窓口移住相談：177件。オーダーメイドツアー利用7件。空き家バンク：登録18件、成約9件。10月から始めた地域留学では、10月～12月は1名、1月～3月は3名をそれぞれ採用することができた。 2 ①健診受診者：4,365名。結果説明：1,822名。健康デー：509名。個別栄養、運動相談：30名。 3 ①生活支援コーディネーター、町社会福祉協議会と取組や課題について意見交換、星の宮地区生活支援整備協議会では移動支援を小規模で開始できるよう検討を行った。 ②サロンへの活動内容の相談・支援を行った。 4 ①太陽光設置補助金申請：17件。家庭用蓄電池設置補助金申請：18件。 ③生ごみ処理事業：家庭系178t（全294t）、草の堆肥化、エコ土曜日（資源物・小型家電・硬質プラスチック等回収）、廃油回収等の継続実施。資源物ステーション設置補助金の交付。 5 ①R8年度東田井自治会の地区防災計画を作成。東田井自治会をもって計画策定自治会が5件となり、計画目標を達成した。 ②交通安全教室、防犯パトロール等を実施。前年同期からは各目標ともに減少または同数となったが、計画の目標達成には至らなかった。	1 ①結婚相談については、相談者が無かったことから、町で行っている相談会は終了し、栃木県結婚支援センターへの登録を推進する。 ②移住相談については、移住相談者への確度の高いサポートに努める。補助制度の見直しを行い、住まい支援金とマイカー取得支援金を一本化し、UIJターン支援を推進する。地域留学については目標人数を採用することができたが、直前で辞退者が出たため、丁寧な制度説明とフォローが必要である。アンバサダー制度を開始し、情報発信の強化に努め益子ファンを獲得する。学校卒業後の定住を促すため奨学金返還支援を継続する。 2 ①健康づくりモチベーション維持のため、個別栄養相談や健康デーを実施している。各回ごとにテーマを設ける「健康イベント」も好評であり、今後も参加意欲を維持するためにも継続していく。 3 ①星の宮地区で移動支援を小規模で行えるよう準備を進める。 ②サロンについては、団体等が継続して活動できるよう、会場等の環境整備を支援していく。 4 ①次世代エネルギー利用推進のため、太陽光発電パネル、蓄電池、V2H、ペレットストーブの設置補助を継続していく。 ③全体的に生ごみの処理量が減っているのも、様々な媒体をとおしてPRしていく。 5 ①新たな作成希望自治会の選定を進める。 ②交通安全教室の内容を充実させるとともに、引き続き交通安全運動などを通じた啓発活動を行う。また、防犯意識啓蒙のため、随時広報やSNS、防災無線を活用した啓発を実施する。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【計画・実施状況シート】			課局名	福祉子育て課					
基礎目標	1 幸せを感じる暮らしをつくる		政策	若者や子育て世代を応援するまちの実現					
施策	みんなで子育てするまちの実現		進捗状況	100%					
関連する優先目標	1「子供を育てたいまち」		関連するSDGs	—					
KPI	年間出生数(4～3月)		本年度目標値	120	現状値	(4-3月)76人	対前年同期比	△9人	
KPI			本年度目標値		現状値		対前年同期比		
KPI			本年度目標値		現状値		対前年同期比		
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①益子らしい自然を活かした遊びの検討	②実施なし ③夕刻結婚相談会開催4/25(相談者0) ④親子ヨガ4/16(7組)利用者:685人(うち自習室:27人) ましこッチ登録者数:12組、参加者数:延べ20組						
	5月	②学童期からの思春期教室の検討 ③出会いイベント等の検討	②実施なし ③社協婚活イベント募集:男100人以上、女17人→10人ずつに絞る ④乳幼児リトミック5/14(12組)利用者:674人(うち自習室:21人) ましこッチ登録者数:12組、参加者数:延べ23組						
	6月	④ましこっこハウスの充実 ⑤子育て応援手当等による支援	②実施なし ③社協婚活イベント開催6/8:男性10人、女性7人参加→フレンド成立8組 栃木県・真岡市・上三川町と合同で広域婚活イベント検討会を実施。10月に開催する方向。 ④乳幼児リトミック講座6/8(9組)利用者:894人(うち自習室:20人) ましこッチ登録者数:16組、参加者数:延べ35組 ⑤子育て応援手当については10月に実施予定。						
	7月	①益子らしい自然を活かした遊びの検討 ②学童期からの思春期教室の検討	②益子中思春期教室7/8:(生徒90名) ③道の駅ましこにて、夕刻結婚相談会ちらし配布実施 夕刻結婚相談会開催7/18(相談者0) 広域婚活イベント(10月11日真岡市にて実施) 40～50代と20～30代とに分けて2部制で実施する。 ④利用者:953人(うち自習室:38人) ましこッチ登録者数:20組、参加者数:延べ20組 夏まつりの実施(20組の参加、ボランティア協力:17名(オビニオンリーダー、益子芳星高校生など) ⑤子育て応援手当については10月に実施予定。						
	8月	③出会いイベント等の検討 ④ましこっこハウスの充実	②実施なし ③広域婚活イベントの開催日決定(10月11日真岡市にて実施) ④利用者:846人(うち自習室:2人) ましこッチ登録者数:15組、参加者数:延べ26組 ⑤子育て応援手当については10月に実施予定。						
	9月	⑤子育て応援手当等による支援	①9月20日(土)小宅古墳群にて「竹を使ったあそび教室」実施(ましこいきいきトライヤルスクール) ③広域婚活イベントについて町広報に掲載。 ④利用者:715人(うち自習室:31人) ましこッチ登録者数:18組、参加者数:延べ18組 ⑤子育て応援手当申請書発送(10月6日より受付開始) 465世帯 505人 2,295万円						
	10月	①益子らしい自然を活かした遊びの検討 ②学童期からの思春期教室の検討 ③出会いイベント等の検討	②実施なし ③10/11県東エリア婚活イベントを真岡市寺内駅舎内真岡珈琲にて実施。参加者は男性18名・女性20名(応募者:男性169名・女性55名、うち益子町申込者:男性6名・女性1名)、プレ交際成立:13組(うち20～30代は10組、40～50代は3組) ③社協婚活イベント開催10/26:男性7人、女性8人参加→フレンド成立3組 ④利用者:782人(うち自習室:50人) ましこッチ登録者数:19組、参加者数:延べ34組 ファミリーサポート利用回数1回 ⑤子育て応援手当申請書発送(10月6日より受付開始) 465世帯 505人 2,298万円						
	11月	④ましこっこハウスの充実 ⑤子育て応援手当等による支援	②益子特別支援学校じぶん未来学11/18(生徒17名) ④利用者:563人(うち自習室:34人) ましこッチ登録者数:19組、参加者数:延べ17組 ⑤子育て応援手当支給実績:421世帯91%、454人90%、2,066万円90%(申請期限は12月26日(金))						
	12月		②田野中思春期教室12/16:(生徒25名) ④利用者:583人(うち自習室:40人) ましこッチ登録者数:20組、参加者数:延べ30組 ⑤子育て応援手当支給実績:454世帯97%、494人97%、2,244万円97%(申請期限は12月26日(金))						
	1月	①益子らしい自然を活かした遊びの検討 ②学童期からの思春期教室の検討	②七井中思春期教室1/23:(生徒47名) ④利用者:628人(うち自習室:27人) ましこッチ登録者数:21組、参加者数:延べ20組 ⑤子育て応援手当支給実績:458世帯98%、499人98%、2,269万円98%						
	2月	③出会いイベント等の検討 ④ましこっこハウスの充実	②益子西小思春期教室2/26:(5年生39名、6年生39名) ④利用者:652人(うち自習室:26人) ましこッチ登録者数:21組、参加者数:延べ25組 ⑤子育て応援手当支給実績:459世帯99%、500人99%、2,274万円99%						
	3月	⑤子育て応援手当等による支援	②実施なし ④利用者:799人(うち自習室:26人) ましこッチ登録者数:23組、参加者数:延べ26組、ファミリーサポート利用回数3回						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	②実施はなかったが、今年度の実施に向けて関係機関との打ち合わせを進めている。 ③社協主催婚活イベントについても結婚を前面に出さず、友達作りとして募集をかけたところ当初女性の申し込みが過去最多の17名であった。男性の申し込みについては依然として女性の申し込みを大幅に上回っている。フレンド成立については最大3名まで可能なので、人気のあった男性女性に偏る傾向がある。10月に初の試みとして県・真岡市・上三川町・益子町合同で広域婚活イベントを検討中。 ④「ましコッチ」の対象児童は1歳以上としているが、生後11カ月の児童についてお試しで参加案内をしたところ、6月は過去最多の参加者となった。保護者のニーズが一定数あることが確認できたが、保育料無償化事業もあることで早期から保育園に入所する児童が多いため限られた参加期間となる傾向にある。
第2 四半期	②町内3校中1校の実施が終了した。他2校も年度内に実施予定である。 ③10月11日に県・真岡市・上三川町・益子町合同で広域婚活イベント(県東エリア婚活イベント)を真岡市で開催することになった。町開催のイベント同様、男性の申込者が女性の申込者の約5倍と男性のニーズが多い状況である。 ④高校生、オピニオンリーダーの協力により多世代交流を実施することができた。また、高校生の幼児との触れ合いによりこどもに対して考える機会を創出することができた。 ⑤紙媒体での子育て応援手当支給については今年度最後となる見込み。次年度について、デジタル通貨での支給について観光商工課と協議した。支給するにあたり、窓口での受渡しが省略できる見込み。
第3 四半期	②について、学校において思春期教室を実施した。次期以降も予定している。 ③10月11日に県・真岡市・上三川町・益子町合同で広域婚活イベント(県東エリア婚活イベント)を真岡市で開催。町社協開催のイベントと同様、男性から女性に対してコミュニケーションをとることができず課題であると感じた。 ④ましコッチの利用については、安定した水準を維持しているが、ファミリーサポートセンターの利用が少ない現状である。引き続き、乳児検診やましコッコハウス利用者にPRを実施していく。 ⑤例年同様紙媒体での支給を実施。未申請者に対してLINE等で再周知を実施したが、前年度より期限が短く97%どまりとなってしまった。
総括 (第4 四半期 含)	①自然を活かした遊びについては、生涯学習課の事業として継続し、福祉子育て課としては、子ども食堂で地域ボランティアによる昔遊びの提供を検討する。 ②については、各学校において思春期教室を実施した。赤ちゃん抱っこ体験等を取り入れ、より記憶に残りやすい内容を実施した。今後も生徒の理解度や課題に併せたグループワークを組み立て、将来の子育てに生かせる教室を実施していきたい。 ③夕刻結婚相談会については、ニーズが無いことから次年度以降の実施しないこととする。次年度については、栃木県結婚支援センターの登録を推進する。 ④ましコッコハウスの利用人数については、他市町の利用数が減少した。真岡市にできた子ども子育て支援拠点施設【monaca】の影響があると考えられる。ファミリーサポートセンターのPRについては、引き続き乳児検診等でPRしていく。新事業として【誰でも通園制度】が4月から実施される事に伴い、ファミリーサポートセンター利用は益々減少することが想定される。 ⑤申請者が99%ということで昨年度の同水準の結果となった。ジャージや上履き等の学用品購入をすることができ高評価を得ていると感じられる。次年度については紙幣ではなく電子通貨での支給を実施する見込み。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 ファミリーサポートセンターの利用減少に関しては、PRの拡大や利用しやすいような工夫等などお願いしたい。	ファミリーサポートセンターの利用については、スタッフが保護者から子育て相談を受けた時だけでなく、乳児検診やましっこハウス利用時においてスタッフから直接保護者に対して事業内容や利用例等を説明し保護者に興味を持っていただくことで利用者増に努める。その他、事業については、「総括(第4四半期含)」のとおりに進めていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	観光商工課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	若者や子育て世代を応援するまちの実現						
施策			みんなで子育てするまちの実現	進捗状況	100%						
関連する優先目標			1「子供を育てたいまち」	関連するSDGs	—						
KPI			年間出生数(4～3月)	本年度目標値	120	現状値	(4-3月)76	人	対前年同期比	△9	人
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果					
主な取組内容	4月	⑤「益子町若者定住推進住まいづくり奨励金」及び「若年子育て世帯家賃補助」の周知・広報と交付事務			⑤奨励金【申請:5件】 ⑤家賃補助【申請:1件】						
	5月				⑤奨励金【申請:1件】 ⑤家賃補助【申請:2件】						
	6月				⑤奨励金【申請:1件】 ⑤家賃補助【申請:1件】						
	7月	⑤「益子町若者定住推進住まいづくり奨励金」及び「若年子育て世帯家賃補助」の周知・広報と交付事務			⑤奨励金【申請:3件】 ⑤家賃補助【申請:1件】 7/25県内各市町村移住定住に係る支援制度の意向調査						
	8月				⑤奨励金【申請:3件】 ⑤家賃補助【申請:1件】 ●移住支援金申請1件						
	9月				⑤奨励金【申請:1件】 ⑤家賃補助【申請:0件】						
	10月				⑤奨励金【申請:2件】 ⑤家賃補助【申請:0件】						
	11月	⑤「益子町若者定住推進住まいづくり奨励金」及び「若年子育て世帯家賃補助」の周知・広報と交付事務			⑤奨励金【申請:3件】 ⑤家賃補助【申請:0件】※申請交付決定あったものの辞退(自治会加入を辞退したため)						
	12月				⑤奨励金【申請:0件】 ⑤家賃補助【申請:1件】						
	1月	⑤「益子町若者定住推進住まいづくり奨励金」及び「若年子育て世帯家賃補助」の周知・広報と交付事務			⑤奨励金【申請:3件】 ⑤家賃補助【申請:1件】						
	2月				⑤奨励金【申請:2件】 ⑤家賃補助【申請:0件】						
	3月				⑤奨励金【申請:0件】 ⑤家賃補助【申請:0件】						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1四半期	⑤奨励金については前年同期より1件少ないが、申請に向けた相談も受け付けており次期四半期以降の申請が見込まれる。家賃補助については継続の申請が4件であった。 転入手続き時に制度を活用する申請者が多く、移住の検討段階において後押しとなるよう、本年度も移住検討者向けのイベント出展に参加予定であるため、引き続き両制度の周知に努めたい。 いずれも事業終了年度となるため、次期へ向けて新たな移住支援制度の検討を図りたい。
第2四半期	⑤奨励金については、一昨年度と横ばいのペースで申請を受け付けている。 移住支援金の申請があり、9月付け交付決定となった。子育て世帯や若い世代の方の申請が多いため、周知を図りたい。 7月に各市町村宛に現在の移住定住に係る補助制度の意向調査を実施した。 各市町の制度内容や傾向を参考に、今後の本町における移住に関する制度内容の充実に努めていきたい。
第3四半期	⑤奨励金については、前年度同時期の申請実績を上回っており順調である。家賃補助については、申請者の申し出により決定取消となった事案が1件あった。理由は要件である自治会への加入を辞退したことによるものであり、普段の移住相談対応でも子育て世帯への自治会加入のハードルが高いことが伺える。 交付条件等の制度見直しを行い、次年度以降の制度充実へ向けて検討していきたい。
総括（第4四半期含）	⑤奨励金については、第1四半期から第4四半期の全実績は24件となり、前年度と同水準となった。制度の周知が一定程度進んだことが、安定した実績につながったと考えられる。 家賃補助については、今年度で事業終了に伴い1月をもって新規申請の受付を終了した。 本年度を通して制度の見直しを行い、次年度からは新制度を設置することとした。 現行の制度に代わり、 ・県外から移住した者を対象に、住まい支援金(新築50万、中古10万) ・東京圏から移住した方を対象に、マイカー取得支援金 の2種類の支援金を一本化し、Uターン支援制度とした。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 新制度の活用が増えることを期待する。	総括(第4四半期分含)のとおり進めるとともに、新しい制度の周知及び活用を促していく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【計画・実施状況シート】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	学校教育課						
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	若者や子育て世代を応援するまちの実現					
施策			みんなで子育てするまちの実現	進捗状況	100%					
関連する優先目標			1「子供を育てたいまち」	関連するSDGs						
KPI			年間出生数(4～3月)	本年度目標値	120	現状値	(4-3月)76人	対前年同期比	△9人	
KPI				本年度目標値		現状値		対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値		対前年同期比		
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果				
主な取組内容	4月	⑤子育て世帯への支援 学校給食費の補助			⑤なし					
	5月				⑤なし					
	6月				⑤児童500円/月、生徒600円/月 4月～6月分の補助 延べ人数4,396人 2,363,600円					
	7月	⑤子育て世帯への支援 学校給食費の補助			⑤児童500円/月、生徒600円/月 7月分の補助 延べ人数1,465人 787,900円					
	8月				⑤なし					
	9月				⑤児童500円/月、生徒600円/月 9月分の補助 延べ人数1,462人 786,400円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 9月分の補助 延べ人数 1,464人 1,464,000円					
	10月	⑤子育て世帯への支援 学校給食費の補助			⑤児童500円/月、生徒600円/月 10月分の補助 延べ人数1,462人 786,300円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 10月分の補助 延べ人数 1,466人 1,465,280円					
	11月				⑤児童500円/月、生徒600円/月 11月分の補助 延べ人数1,461人 785,700円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 11月分の補助 延べ人数 1,464人 1,464,000円					
	12月				⑤児童500円/月、生徒600円/月 12月分の補助 延べ人数1,464人 787,300円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 12月分の補助 延べ人数 1,466人 1,466,000円 物価高騰分 米飯分 児童246円/月、生徒358円/月 12月分の補助 延べ人数 1,465人 422,326円 副食分 児童225円/月、生徒230円/月 12月分の補助 延べ人数 1,464人 332,165円					
	1月	⑤子育て世帯への支援 学校給食費の補助			⑤児童500円/月、生徒600円/月 1月分の補助 延べ人数1,463人 786,800円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 1月分の補助 延べ人数 1,466人 1,466,000円 物価高騰分 米飯分 児童246円/月、生徒358円/月 1月分の補助 延べ人数 1,464人 422,080円 副食分 児童225円/月、生徒230円/月 1月分の補助 延べ人数 1,467人 332,840円					
	2月				⑤児童500円/月、生徒600円/月 2月分の補助 延べ人数1,463人 786,800円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 2月分の補助 延べ人数 1,466人 1,465,190円 物価高騰分 米飯分 児童246円/月、生徒358円/月 2月分の補助 延べ人数 1,464人 422,080円 副食分 児童225円/月、生徒230円/月 2月分の補助 延べ人数 1,465人 332,390円					
	3月				⑤児童500円/月、生徒600円/月 3月分の補助 延べ人数1,460人 720,700円 保護者負担軽減分 児童・生徒 1,000円/月 3月分の補助 延べ人数 1,464人 1,462,760円 物価高騰分 米飯分 児童246円/月、生徒358円/月 3月分の補助 延べ人数 1,461人 421,230円 副食分 児童225円/月、生徒230円/月 3月分の補助 延べ人数 1,454人 329,910円					

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第 1 四 半 期	⑤子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、引き続き学校給食費の一部の補助を行っていく。
第 2 四 半 期	⑤子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、引き続き学校給食費の一部の補助を行っていく。
第 3 四 半 期	⑤子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、引き続き学校給食費の一部の補助を行っていく。
総 括 (第 4 四 半 期 含)	⑤子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、学校給食費の一部の補助を行った。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 物価高騰が続いているので補助支援を続けていただきたい。	翌年度も国の交付金を活用し、保護者の負担軽減を図る。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【計画・実施状況シート】

課局名		観光商工課									
基礎目標		政策	若者や子育て世代を応援するまちの実現								
施策		進捗状況	100%								
関連する優先目標		関連するSDGs									
KPI	人口の社会動態(20～30代)	本年度目標値	△ 50	現状値	(4-3月) △127	人	対前年同期比	△93	人		
KPI		本年度目標値		現状値			対前年同期比				
KPI		本年度目標値		現状値			対前年同期比				
①年間計画(スケジュール・工程)					②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	③-1 オーダーメイドツアーの周知・開催 ③-2 地域留学及びアンバサダー制度設計・情報発信 ④移住相談の実施 ⑤空き家バンク制度運営			③-1 お試し住宅【利用:1件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:5件】【道の駅:6件】 ⑤バンク【登録:3件】【成約:2件】						
	5月	●R1年度開始の地方創生移住支援金※の周知・広報と交付事務 ※ 東京23区の在住者等が、県が運営する企業情報掲載サイトに掲載された求人へ新規就業するなどして県内市町に移住した場合に、国・県・町が支援金を交付する制度			③-1 お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:0件】 ③-2 地域留学及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:5件】【道の駅:7件】 ⑤バンク【登録:0件】【成約:0件】 制度案内および相談会実施チラシを固定資産税通知書に同封し送付						
	6月				③-1 お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:0件】 ③-2 地域留学及びアンバサダー制度設計・情報発信 ④相談【役場:2件】【道の駅:2件】 ⑤バンク【登録:0件】【成約:0件】						
	7月	③-1 オーダーメイドツアーの周知・開催 ③-2 地域留学及びアンバサダー制度設計・情報発信 ④移住相談の実施 ⑤空き家バンク制度運営			③-1 お試し住宅【利用:1件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学及びアンバサダー制度設計・情報発信 ④相談【役場:6件】【道の駅:10件】 ⑤バンク【登録:2件】【成約:2件】						
	8月	●R1年度開始の地方創生移住支援金※の周知・広報と交付事務 ※ 東京23区の在住者等が、県が運営する企業情報掲載サイトに掲載された求人へ新規就業するなどして県内市町に移住した場合に、国・県・町が支援金を交付する制度			③-1 お試し住宅【利用:1件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:4件】【道の駅:10件】 ⑤バンク【登録:3件】【成約:0件】 8/14空き家バンク登録相談会実施						
	9月				③-1 お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:7件】【道の駅:13件】 ⑤バンク【登録:1件】【成約:0件】						
	10月				③-1お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:0件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:8件】【道:6件】 ⑤バンク【登録:1件】【成約:2件】						
	11月	③-1オーダーメイドツアーの周知・開催 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④移住相談の実施 ⑤空き家バンク制度運営			③-1お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:2件】【道:9件】 ⑤バンク【登録:0件】【成約:1件】 ・11/16オールとちぎ移住&しごとフェアで移住相談【19件】						
	12月				③-1お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:4件】【道:3件】 ⑤バンク【登録:6件】【成約:1件】 ・12/12真岡市×益子町移住オンラインセミナー【参加者14名】						
	1月				③-1お試し住宅【利用:1件】、ツアー【利用:0件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:3件】【道:7件】 ⑤バンク【登録:0件】【成約:0件】						
	2月	③-1オーダーメイドツアーの周知・開催 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④移住相談の実施 ⑤空き家バンク制度運営			③-1お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:0件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:2件】【道:7件】 ⑤バンク【登録:0件】【成約:1件】						
	3月				③-1お試し住宅【利用:0件】、ツアー【利用:1件】 ③-2 地域留学情報発信及びアンバサダー制度設計 ④相談【役場:4件】【道:3件】 ⑤バンク【登録:0件】【成約:0件】						

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1四半期	③-1お試し住宅については予約の問い合わせが増えているものの、キャンセルが入り空室となってしまう月が続いた。移住検討者へ移住体験を提供する機会を増やすために、今後の運用についても検討を進めたい。いずれも移住促進のための具体的な方策として、引き続き周知を図り利用を促進したい。 ③-2昨年度検討段階であった地域留学及びアンバサダー制度について、4月から本格的な事業実施に向けた制度設計を行っている。地域留学についてはシェアハウスの確保、アンバサダー制度については特典が最大の課題となっている。今後町内事業者を中心に声掛け、情報収集を行うことで事業実施を目指していく。6月からはSNSを活用した情報発信に取り組み、別途継続的に情報発信をしていく予定。 ④移住相談は、R1年度以降の傾向として道の駅での相談件数が多いものの、具体的な移住支援制度の活用など関心度の高い相談者が少ないのが課題である。移住検討者それぞれに寄り添った支援により、一人ひとりを着実に移住へとつなげていく。 【役場・道の駅での相談件数(4～6月)】H29:27、H30:25、R1:32、R2:30、R3:58、R4:40、R5:32、R6:45 ⑤空き家バンクは、R1年度から固定資産税納税通知書にチラシを同封し、本年度は所有者へ向けた空き家バンク登録相談会を実施するため周知した。また協力業者と担当者会議を開催し、運用について協議を行ったため、本年度を通して制度の見直しを進めたい。
第2四半期	③-1お試し住宅・オーダーメイドツアーともに利用者が続き、順調であった。移住相談の延長上でオーダーメイドツアーの申込が続いたため、いずれも移住促進のための具体的な方策として、引き続き周知を図り利用を促進したい。 ③-2地域留学については、これまで課題であったシェアハウスを確保することができ、7月末に留学生募集に関する情報発信を開始することができた。10月-12月の募集については1名を採用することができたが、目標である3名の採用に向けて、今後も引き続き情報発信を強化することにより留学生の採用を目指す。アンバサダー制度については、11月中の制度運用開始に向けて、デジタル名刺券面デザインや特典の内容の検討引き続き行っていく。 ④移住相談は、引き続き道の駅での相談件数が多いものの、漠然とした相談者が多く、対して役場への相談者は移住支援制度など具体的な問い合わせが多く、移住に対する関心が高い傾向があるため、丁寧な相談対応に努め一人ひとりを着実に移住へとつなげていく。 ⑤空き家バンクは、8/14空き家バンク登録相談会を実施し、11名の参加申し込みがあり、当日の参加者(相談者)は7件中7件が申請に至った。通常の登録促進業務と比べても着実な相談件数に繋げることができたため、今後も継続して取り組みたい。
第3四半期	③-1お試し住宅については利用方法や運用について、検討していきたい。オーダーメイドツアーについては、引き続き周知していきたい。 ③-2地域留学については、10月-12月の留学生は1名となったが、募集を継続的に続けることで、今年度目標である合計6名を採用することができたが、直前での内定辞退が1名となり、1月からは4名が留学生としての活動を開始する。活動先については10月-12月よりも活動先を増やすことができた。今後もさらに、窯業や農業など様々な活動場所を開拓することで、より魅力的な制度となるように、引き続き活動場所については開拓を進める。アンバサダー制度については、運用開始が遅れているが、今年度目標である50名の獲得に向けて、情報発信等を強化する。具体的には、これまでで町と関わりのある人へ向けた直接的なアプローチや募集イベントの開催を検討する。 ④相談件数については役場・サポートセンターの実績は昨年度とほぼ横這いだがイベント出展の減少により合計件数は減少している。イベント出展時は、相談件数が伸びるものの、移住に興味を持ち始めたライト層が多く、益子に引き込める層が限られているため、より効果的な周知促進に努めたい。 本年度は新たに真岡市×益子町移住オンラインセミナー(12/12)を実施し、近隣市町村と連携した事業を実施した。参加者は14名であったが、今後も連携を継続したい。 ⑤空き家バンク実績はほぼ横ばい。空き家対策本部の建設課と連携をとりながら総体的なプラットフォーム構築の準備を進めたい。
総括(第4四半期含)	③-1お試し住宅については1ヵ月利用が基本であり年に11組までしか受け入れできないことや、移住定住のターゲット層である若年層や子育て世帯の利用率から、見直しを行い今年度いっぱい終了とし、より多くの移住検討者へ機会を設けるために新年度より、宿泊助成を実施することとした。利用者の傾向を記録し、適切な運用を図りたい。 オーダーメイドツアーについては、昨年度実績(5件)と比較して7件と好調であった。引き続き周知していきたい。(お試し住宅利用者4組7名/オーダーメイドツアー申込者7組) ③-2地域留学については、最終的に10月-12月期1名、1月期-3月期3名が留学制度へ参加をした。採用人数としては今年度目標である6名を採用することができたが、直前及び参加期間直後での辞退者が出るなど、今後より募集段階で、丁寧な制度説明や来町までのフォローをする必要がある。アンバサダー制度については、来年度4月から申し込みを開始することとなり、今後情報発信を強化することで、アンバサダーの獲得を目指していく。 ④相談件数については役場・サポートセンターの実績はイベント出展頻度がほぼ同様の令和5年度とほぼ横這いであった。(令和6年度の210件はイベント出展によるもの)相談者の中でも確度の高い移住検討者へ向けてのサポートが求められるため、検討者の見極めとサポートに努めたい。(移住相談件数R5年168件・R6年210件・R7年177件) ⑤空き家バンク実績はやや減少。登録に至るまでの申請手続きや事務処理が煩雑であることから、気軽に申請できるよう要領を見直し、引き続き登録推奨に努めたい。空き家対策本部の建設課と連携をとりながら総体的なプラットフォーム構築の準備を進めたい。(登録件数18件、成約件数9件)

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総 括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 新たな取り組みである地域留学やアンバサダー制度の 実用により関係人口の増加や制度による町の活性化を 期待したい。	総括(第4四半期分含)のとおり進め、地域留学やアン バサダー制度による関係人口の増加や町の活性化に 努める。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	学校教育課								
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	若者や子育て世代を応援するまちの実現							
施策			若者のUIJターンの推進	進捗状況	100%							
関連する優先目標			2「住みたいまち」	関連するSDGs	—							
KPI			人口の社会動態(20～30代)	本年度目標値	△ 50	現状値	(4-3月) △127	人	対前年同期比	△93	人	
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比			
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比			
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①令和7年度に開始された奨学金返還支援事業補助金の周知と交付事務			①返還支援事業の周知を図るため、広報ましこ、町ホームページに記事を掲載した。							
	5月				①なし							
	6月				①日本学生支援機構ホームページに、返還支援事業の実施について掲載している。 返還支援申請【1件】							
	7月	①奨学金返還支援事業補助金の交付事務			①なし							
	8月				①返還支援申請【1件】							
	9月				①なし							
	10月	①奨学金返還支援事業補助金の交付事務			①なし							
	11月				①返還支援事業の周知を図るため、町LINEに記事を掲載した。							
	12月				①なし							
	1月	①奨学金返還支援事業補助金の交付事務			①なし							
	2月				①なし							
	3月				①広報ましこ、お知らせ版に記事を掲載							

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①奨学金返還について、1件の申請があった。 令和7年度からの事業のため、周知を進めたい。
第2 四半期	①奨学金返還について、1件の申請があった。 周知を進めたい。
第3 四半期	各媒体で返還支援制度についての周知を進めたい。
総括 (第4 四半期 含)	今後も各媒体で返還支援制度についての周知を進め、若者のUJターンを促したい。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 補助金制度の利用により若者の定住者が増加することを期待する。	補助金制度の利用者が増えるよう、町広報紙やSNS等各媒体を活用し周知を進めていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】				課局名	生涯学習課							
基礎目標		1 幸せを感じる暮らしをつくる		政策	若者や子育て世代を応援するまちの実現							
施策		若者のUJJターンの推進		進捗状況	100%							
関連する優先目標		2「住みたいまち」		関連するSDGs	—							
KPI		人口の社会動態(20～30代)		本年度目標値	△ 50	現状値	(4-3月) △127	人	対前年同期比	△93	人	
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比			
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比			
		①年間計画(スケジュール・工程)				②実施内容・実績・成果						
主な 取組 内容	4月	②令和7年度二十歳のつどい対象者の把握			なし							
	5月				なし							
	6月				②令和7年度二十歳のつどい対象者の確認							
	7月	②二十歳のつどい実行委員会の開催			なし							
	8月				②8/16二十歳のつどい実行委員会 23名							
	9月				なし							
	10月	②二十歳のつどい転入・転出者の把握 式典開催の準備(開催通知、依頼、しおりの作成等) 記念品の準備			なし							
	11月				②恩師挨拶依頼 来賓臨席依頼 開催通知の発送(207名) 記念品購入							
	12月				②二十歳のつどい開催広報ましこ、お知らせ版掲載 実行委員役員リハーサル通知の発送 しおり作成準備							
	1月	②二十歳のつどい開催 式典の準備・アンケートの集計			②1/11 二十歳のつどい開催。参加者159/207名。 出席率76.8% アンケートの実施							
	2月				②アンケートのとりまとめ(27名回答) ②来年度に実施に向け生徒会役員、同窓会役員の名簿 作成準備							
	3月				なし							

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	②Uターン意識の醸成を図る取り組みの検討をしていく。
第2 四半期	②実行委員に県外在住者も多いためお盆帰省時期に合わせ実行委員会を開催。二十歳のつどいの開催に併せ、成人者を対象としたUターン意識の醸成を図るために、若者の移住定住に関するアンケートを実施予定。
第3 四半期	②主に第3四半期は式典準備期間となる。寄稿依頼や印刷等、式典の準備を進める。
総括 (第4 四半期 含)	②天候にも恵まれ、駐車場等の混乱もなく無事終了。令和8年度は図書館建設が始まるため、南側の砂利駐車場が使用できなくなるため、町民会館下の新設駐車場等を案内する。 二十歳の記念品として写真を送付しているが、住所が変更になり届かない人が何人かいたので、会場内での周知が必要。 令和8年からは25歳同窓会補助金(仮)が始まるので、夏までに要綱の整備とライン等による広報が必要。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 令和8年度から開始の同窓会補助金利用にも期待する。	・25歳同窓会支援補助金について、SNS等を通して情報発信を行っていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	福祉子育て課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	健康・長寿ましこづくりの推進						
施策			ライフステージに応じた健康づくりの推進	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs	3健康・福祉						
KPI			メタボリックシンドローム予備軍の割合	本年度目標値	10.5	現状値	12.1	%	対前年同期比	+0.3	%
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果					
主な取組内容	4月	①②③④⑤健康診査の実施及び結果説明会等により、町民の健康意識を向上し、生活習慣病の発症・重症化予防、適正体重の普及やフレイル対策。			①②③④⑤ ・健診対象者へ個別通知を送付し受診勧奨。前年度までの実績による対象者4,161名 ・健診の新規対象者(40歳)に個別通知238名 ・肝炎検査の無料対象者へ個別通知1,806名 ・医療機関(病院・歯科医院)へポスター掲示依頼(健診受診勧奨、健康教室案内、介護予防教室案内) ・健康デー 39名、個別栄養相談 2名、個別運動相談 3名 ・健康教室「健診のすすめ～自分の体について考えよう～」医師講話。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・広報ましこ保健センターだより「乳幼児健診などのご案内」「集団健康診査のご案内」						
	5月				①②③④⑤ ・集団健康診査5/11 96名、5/14 98名、5/24 112名 ・がんクーポン券発送 対象者 子宮90名、乳112名 ・健康デー 35名、個別栄養相談 1名 ・健康教室「肺活量UPで毎日をもっと元気に」運動指導士講話・実技・個別相談。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談 ・食生活改善推進員勉強会 26名 ・3歳児健診時肥満に関する資料展示及び配布 ・広報ましこ保健センターだより「带状疱疹ワクチン予防接種」						
	6月				①②③④⑤ ・集団健康診査6/24 153名、6/25 169名 ・健診結果説明会6/15 30名、6/18 38名、6/28 20名 ・健診結果説明会予備日2回10名 ・健診未受診者及び未予約者への勧奨通知送付(1回目)対象者1,958名 ・健康デー 40名、個別栄養相談 1名、個別運動相談 2名 ・健康教室「ベジチェック、歯の健康」歯科衛生士講話及び個別相談。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談 ・健康教室・健康相談 3回55名 ・2歳児歯科検診時おやつの適量に関する資料配布及び手作りおやつ提供 ・広報ましこ保健センターだより「6月は食育月間、毎月19日は食育の日」						
	7月				①②③④⑤ ・集団健康診査7/2(水) 166名、7/11(金)175名、7/19(土)151名、7/26(土)189名、7/29(火)119名 ・健診結果説明会7/30(水)108名 ・健診結果説明会予備日2回25名 ・健康デー 44名、個別栄養相談 2名、個別運動相談 2名 ・健康教室「夏を楽しむ健康プロジェクト」～暑さに負けない夏のセルフケア～医師講話。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・3歳児健診時肥満に関する資料展示及び配布 ・広報ましこ保健センターだより「7月14日～20日はこどもの事故防止週間」						
	8月	①②③④⑤健康診査の実施及び結果説明会等により、町民の健康意識を向上し、生活習慣病の発症・重症化予防、適正体重の普及やフレイル対策。			①②③④⑤ ・集団健康診査8/1(金)122名、8/4(月)145名、8/19(火)168名 ・健診結果説明会8/6(水)81名、8/22(金)130名、8/30(土)92名 ・健診結果説明会予備日2回30名 ・健康デー 38名、個別栄養相談 5名、個別運動相談 2名 ・健康教室「8/4は栄養の日 栄養のチカラ」栄養士講話。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・おやこの食育教室8/9(土) 9名 ・広報ましこ保健センターだより「全身の健康は、口の健康から。始めようオーラルフレイル対策」						
9月	①②③④⑤ ・集団健康診査9/21 191名、9/29 159名 ・健診結果説明会9/5 112名、9/8 58名、9/30 80名※健康教育あり ・健診結果説明会予備日2回35名 ・健診未受診者及び未予約者への勧奨通知送付(2回目)対象者1,733名 ・健康デー 50名、個別栄養相談 3名、個別運動相談 3名 ・健康教室「高血圧予防～野菜を食べよう・ビルマ汁～」栄養士講話及び試食配布。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・健康教室・料理教室 2回29名 ・2歳児歯科検診時おやつの適量に関する資料配布及び手作りおやつ提供 ・3歳児健診時肥満に関する資料展示及び配布 ・広報ましこ保健センターだより「子どもの肥満と県東地区の現状」 ・がんクーポン対象者のうち今年度未受診の方へ再勧奨 子宮88名乳99名										

主な 取組 内容	10月		①②③④⑤ ・集団健康診査10/5 191名、10/8 165名、10/9 177名、10/23 138名、10/24 163名 ・健診結果説明会10/26 56名 ・健診結果説明会予備日 3回32名 ・健康デー 42名、個別栄養相談 1名、個別運動相談 3名 ・健康教室 今日から取り組む「生活習慣病重症化予防」医師講話。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・健康教室・料理教室 3回47名 ・広報ましこ保健センターだより「予防接種費用助成のお知らせ」
	11月	①②③④⑤健康診査の実施及び結果説明会等により、町民の健康意識を向上し、生活習慣病の発症・重症化予防、適正体重の普及やフレイル対策。 ①②③④⑤健康教室・健康相談・栄養相談・運動相談等の開催及び広報等の活用により、生活習慣病の発症・重症化予防。郷土料理等の食育を推進。	①②③④⑤ ・集団健康診査11/5 175名、11/8 124名、11/18 181名、11/21 145名 ・健診結果説明会11/9 131名、11/12 58名、11/13 57名、11/27 104名 ・健診結果説明会予備日 2回48名 ・個別栄養相談 2回2名 ・健康まつり 来場者180名 ベジチェック、フレイルチェック等。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士・栄養士、看護師・理学療法士・言語聴覚士による個別相談。 ・健康教室 1回12名 ・3歳児健診時肥満に関する資料展示及び配布 ・広報ましこ保健センターだより「11月は糖尿病予防・重症化防止強化月間」です。糖尿病性腎症を防ぎましょう！」
	12月		①②③④⑤ ・集団健康診査12/3 168名、12/7 197名、12/11 161名、12/16 167名 ・健診結果説明会12/10 58名、12/13 35名、12/23 118名 ・健診結果説明会予備日 3回40名 ・健康デー 47名、個別栄養相談 3名、個別運動相談 5名 ・健康教室 脳を守る「飲酒と健康的な生活習慣」医師講話。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・健康教室・料理教室 2回42名 ・2歳児歯科検診時おやつの適量に関する資料配布及び手作りおやつ提供 ・益子町食育推進会議 ・広報ましこ保健センターだより「プレコンセプションケアについて知ろう」
	1月	①②③④⑤健康診査の実施及び結果説明会等により、町民の健康意識を向上し、生活習慣病の発症・重症化予防、適正体重の普及やフレイル対策。	①②③④⑤ ・健診結果説明会1/14 54名、1/18 45名、1/22 51名、1/28 40名 ・健診結果説明会予備日 2回39名 ・健康デー 49名、個別栄養相談 4名、個別運動相談 4名 ・健康教室「ベジチェック」、「10分でできるしもつかれ」栄養士講話及び試食配布。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・食文化教室 1回16名 ・3歳児健診時肥満に関する資料展示及び配布 ・広報ましこ保健センターだより「冬がピーク！ノロウイルスに注意」
	2月	①②③④⑤健康教室・健康相談・栄養相談・運動相談等の開催及び広報等の活用により、生活習慣病の発症・重症化予防。郷土料理等の食育を推進。	①②③④⑤ ・健診結果説明会予備日 2回19名 ・健康デー 44名、個別栄養相談 5名、個別運動相談 3名 ・健康教室「フレイルチェック、お薬の話」薬剤師講話、栄養士講話。健康情報の媒体展示・資料配布及び保健師・管理栄養士による個別相談。 ・道の駅でのフレイル普及 46名 ・広報ましこ保健センターだより「2月はフレイル普及啓発月間 始めよう！働き世代からのフレイル対策」
	3月		①②③④⑤ ・健康デー 83名、個別栄養相談 1名 ・健康教室「健康フェスティバル～女性のためのリフレッシュタイム～」運動体験、骨密度測定、血管年齢測定、保健師・管理栄養士・看護師による個別相談。 ・ひなまつり教室 13組28名 ・2歳児歯科検診時おやつの適量に関する資料配布及び手作りおやつ提供 ・広報ましこ保健センターだより「3月は自殺対策強化月間です」

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①②③健診の個別受診勧奨及び医療機関や専門職種と連携した健康教室等により、健康意識向上のための啓発と情報提供を実施した。 ③④⑤望ましい食生活や運動習慣の定着についても、専門職種と連携し、参加町民に寄り添った効果的な支援を実施した。
第2 四半期	①②③健診の個別受診勧奨及び医療機関や専門職種と連携した健康教室等により、健康意識向上のための啓発と情報提供を実施した。 ③④⑤望ましい食生活や運動習慣の定着についても、専門職種と連携し、参加町民に寄り添った効果的な支援を実施した。

第3
四半
期

①②③健診の個別受診勧奨及び医療機関や専門職種と連携した健康まつりや健康教室等により、健康意識向上のための啓発と情報提供を実施した。

③④⑤望ましい食生活や運動習慣の定着についても、専門職種と連携し、参加町民に寄り添った効果的な支援を実施した。

総
括
（
第
4
四
半
期
含
）

①②③健診の個別受診勧奨及び医療機関や専門職種と連携した健康まつりや健康教室等により、健康意識向上のための啓発と情報提供を実施した。

③④⑤望ましい食生活や運動習慣の定着についても、専門職種と連携し、参加町民に寄り添った効果的な支援を実施した。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 町民の健康維持のため継続をお願いしたい。	町民の健康維持のため事業を継続していく。次年度以降は、生活習慣病の重症化予防、幼少期からの食育とフレイル予防も重視し、生涯を通じた健康づくりの推進を行っていく。

総
括

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【計画・実施状況シート】

シート1【計画・実施状況シート】			課局名	福祉子育て課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	だれもがいきいきと生活できる暮らしの充実						
施策			住み慣れた地域で暮らすための支え合いと地域福祉の推進	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs	3健康・福祉						
KPI			地域ぐるみの生活支援組織づくり	本年度目標値	3	現状値	1	組織	対前年同期比	±0	
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果					
主な取組内容	4月	①社会福祉協議会や民生委員児童委員、自治会などによる助け合い・支え合いの地域づくりの推進			②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	5月				②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	6月				①②6/13民生委員児童委員と町長との懇談会実施。 ②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	7月	①社会福祉協議会や民生委員児童委員、自治会などによる助け合いのあり方の検討			②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	8月				②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	9月				①②9/5民生委員児童委員定例会実施。 ②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	10月	②住民参加型の生活支援事業の制度等の検討 ③ひきこもり家庭の相談窓口の検討			②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	11月				①②11/7民生委員児童委員定例会実施。 ②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。11/15福祉まつりにおいて活動周知を行った。						
	12月				①②12/1民生委員児童委員定例会実施。 ②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	1月	①社会福祉協議会や民生委員児童委員、自治会などによる助け合いのあり方の検討			②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	2月				②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						
	3月				①②12/1民生委員児童委員定例会実施。 ②益子町社協による生活支援ボランティア事業「ちょいボラましこ」の推進 ④普及啓発としてパンフレット、ポケットティッシュ等配布。						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	②生活支援ボランティア事業「ちよいボラましこ」を益子町社協にて推進した。活用実績は4月3件、5月2件、6月3件となっており、主に買い物支援で多く利用された。 ④町公共施設でティッシュ等の配布を行っている。7月以降も継続して啓発を行っていく予定。自殺予防月間及び週間にはより力を入れていく。
第2 四半期	②生活支援ボランティア事業「ちよいボラましこ」を益子町社協にて推進した。活用実績は7月3件、8月3件、9月3件となっており、主に買い物支援で多く利用された。 ④町公共施設でティッシュ等の配布を行っている。10月以降も継続して啓発を行っていく予定。自殺予防月間及び週間にはより力を入れていく。
第3 四半期	②生活支援ボランティア事業「ちよいボラましこ」を益子町社協にて推進した。活用実績は10月3件、11月4件、12月4件となっており、主に買い物支援で多く利用された。 ④町公共施設でティッシュ等の配布を行っている。また、11月の福祉まつり(町民まつり同時開催)では、チラシとボールペンを配布し、民生委員の活動について周知を行った。
総括 (第4 四半期 含)	②生活支援ボランティア事業「ちよいボラましこ」を益子町社協にて推進した。活用実績は1月3件、2月3件、3月4件となっており、すべて買い物支援での利用であった。 ③相談窓口体制の強化について、引き続き検討していく。 ④町公共施設でティッシュ等の配布を行っている。また、11月の福祉まつりの際に広報啓発用のボールペンを製作したので、窓口に設置する。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 ひきこもり家庭の支援に向けた相談窓口体制の強化を期待する。	社会福祉協議会その他関係機関との連携により地域福祉の充実を図る。 ひきこもりだけでなく、複雑化・多様化する諸課題に対応していくため、相談支援体制の強化を検討する。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	高齢者支援課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	だれもがいきいきと生活できる暮らしの充実						
施策			高齢者の生きがいがいづくりの推進	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs	3健康・福祉						
KPI			介護予防教室及び高齢者サロン参加者実人数	本年度目標値	410	現状値	419	人	対前年同期比	+86	人
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果					
主な取組内容	4月	①ふれあいサロン運営支援 ②日常生活の支援体制づくり ④いきいきクラブ、シルバー人材センターの活動支援 ⑤地域包括ケアシステムの推進			①補助金交付【サロン:7団体】、新規サロンオープンに向けての相談。 ④いきいきクラブ連合会総会、いきいきクラブ・町有バス利用【クラブ:2団体】、真岡線相互利用事業【クラブ:2団体】シルバー人材センター事務局長、事務員との意見交換を実施。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業4町会議の開催。						
	5月				①補助金交付【サロン:4団体】、活動内容の相談・調整。新規サロンオープニングイベント。 ④いきいきクラブ・補助金交付決定【クラブ:14団体】・町有バス利用【クラブ:1団体】、真岡線相互利用事業【クラブ:1団体】クラブ活動に関する相談対応。シルバー人材センター事務局長との打ち合わせを実施。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業に係る検討会への参加						
	6月				①活動内容の相談・調整 ④いきいきクラブ・補助金交付【クラブ:14団体、連合会】、町有バス利用【クラブ:3団体】、真岡線相互利用事業【クラブ:2団体】、クラブ活動に関する相談対応。シルバー人材センター事務局長との打ち合わせ・意見交換を実施。シルバー人材センターへ補助金を交付。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業に関わる検討会の実施ネットワーク連絡会の開催。						
	7月				①活動内容の相談・調整、新規サロン相談。 ④いきいきクラブ、真岡線相互利用事業【クラブ:1団体】。 ④シルバー人材センター事務局と意見交換。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業運営委員会。						
	8月				①活動内容の相談・調整、新規サロン相談。 ④シルバー人材センター事務局と意見交換。シルバーの事務局に、訪問型サービスA管理者研修、会員に訪問型サービスA従事者研修の開催。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業住民向け講演会の開催。芳賀郡市医師会と研修会活動計画について情報共有・意見交換。						
	9月				①活動内容の相談・調整、新規サロン相談。補助金交付決定【サロン:1団体】 ②生活支援コーディネーターと情報共有を図るため、意見交換会の実施。 ④いきいきクラブ、真岡線相互利用事業【クラブ:2団体】。 ④シルバー人材センター事務局と意見交換。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業多職種研修会の開催。						
	10月				①活動内容の相談・調整 ④いきいきクラブ・町有バス利用【クラブ:1団体】、クラブ活動に関する相談対応。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業に関わる検討会の実施、多職種研修会の開催						
	11月				①活動内容の相談・調整。 ②生活支援コーディネーターと打ち合わせを2回実施 ④いきいきクラブ・町有バス利用【クラブ:1団体】いきいきクラブ活動に関する相談対応。シルバー人材センター事務局との打ち合わせを実施。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業住民公開講座の開催						
	12月				①活動内容の相談・調整。 ④いきいきクラブ活動に関する相談対応、シルバー人材センター事務局との打ち合わせを実施。 ⑤芳賀郡市医師会コーディネーターと打ち合わせを実施						
	1月				①活動内容の相談・調整 ②情報交換・打ち合わせの日程等の調整 ④自治会長会議時、いきいきクラブの現状及び協力依頼の説明実施。R8年度町有バスの利用希望日調査。 ⑤住民公開講座の開催						
	2月				①活動内容の相談・調整 ②益子町社会福祉協議会と取組や課題についての意見交換・打ち合わせを実施 ④いきいきクラブ・真岡線相互利用事業打合せ会議出席(芳賀広域主催) ⑤ネットワーク連絡会、多職種研修会、住民公開講座の開催						
	3月				①補助金実績報告。補助金交付決定【サロン:1団体】 ②星の宮地区生活支援体制整備協議会の開催。那珂川町において、星の宮の移動支援についての相談・意見交換会に参加。第1層協議体会議の開催。 ④いきいきクラブで利用する町有バスの抽選会(真岡線相互利用事業)を実施。いきいきクラブ補助金実績報告。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業運営委員会の開催						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①6月末サロン・教室参加実人数395名(うちサロン198名、介護予防教室58名、自主教室139名) 新規サロンの開設支援や自主団体の活動支援・相談を行った。ふれあいサロンに補助金を交付した。引き続き新規サロンの開設支援を行う。 ④社会福祉協議会でいきいきクラブ連合会総会を開催した。また、真岡線相互利用事業や町有バス利用等、今後の活動について各単位クラブからの相談に応じた。また、活動支援の一つとしていきいきクラブの単位クラブや連合会に補助金を交付した。今後も社会福祉協議会等と連携し、いきいきクラブからの相談に応じるほか、支援を継続していきたい。 シルバー人材センターへ補助金を交付した。ウッドチップの貸与等により、事業拡大や新規会員の加入等について引き続き支援を行う。 ⑤芳賀郡市医師会、芳賀郡1市4町で事業の意見交換会及び在宅医療・介護連携推進事業の検討会、ネットワーク連絡会等を実施した。研修会や住民公開講座の開催準備を行う。
第2 四半期	①9月末サロン・教室参加実人数400名(うちサロン211名、介護予防教室58名、自主教室131名)新規サロンが開設にむけ相談支援をおこなった。 ②第2四半期に地域から出た意見についての支援体制づくりを推進するため、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会等との意見交換・情報共有をはかった。支援体制づくりのため、先進地の視察研修を第3四半期に実施する。 ④真岡線相互利用事業や町有バス利用等、いきいきクラブからの相談に応じるほか、今後も社会福祉協議会等と連携しながら支援を継続していきたい。シルバー人材センターの就労機会の拡大のために、訪問型サービスA管理者研修と従事者研修を開催した。事務局と意見交換等を引き続き継続し行い、事業拡大や新規会員の加入等について支援を行う。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業の中で住民向け講演会、多職種研修会を実施した。第3四半期に、「人生会議」について町民の方々に周知するため、同内容の記事を芳賀郡4町の広報誌に同時期に掲載することを予定している。
第3 四半期	①12月末サロン・教室参加実人数419名(うちサロン214名、介護予防教室62名、自主教室143名) もの忘れ予防教室を実施し終了後自主団体として継続できるよう支援した。また、休止中のサロンが再開できるよう相談や調整をおこなった。 ②情報共有及び連携による体制整備を推進するため、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会などとの意見交換を実施し、第4四半期の実施事業等について検討した。 ④いきいきクラブ活動については、町有バス利用等について各単位クラブからの相談に応じた。なお、第4四半期では、次年度の真岡線相互利用事業や町有バス申込関係について希望日を伺い、調整するなど準備を進めていきたい。シルバー人材センター事務局と意見交換・情報の共有を行った。引き続き意見交換等を継続していく。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業の中で多職種研修会、住民公開講座、在宅医療・介護連携推進事業に関わる検討会を実施した。県、芳賀郡1市4町、芳賀郡市医師会と協力して引き続き事業を推進していきたい。
総括 (第4 四半期 含)	①3月末サロン・教室参加実人数419名(うちサロン214名、介護予防教室62名、自主教室143名) 各サロン・自主教室に対して活動内容の相談や支援をおこなった。自主団体が継続して活動できるよう会場等の環境整備等の支援をおこなった。 ②情報共有及び連携による体制整備を推進するため、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会などとの意見交換・次年度の打ち合わせを第4四半期に実施した。星の宮地区生活支援体制整備協議会で、移動支援の検討を行った。次年度、星の宮地区で移動支援を小規模で開始できるよう準備を進めていく。 ④1月の自治会長会議時に、いきいきクラブの現状及び協力依頼の資料を配布し、自治会の皆さんにいきいきクラブ運営の協力・支援等をお願いした。また、次年度の町有バス利用関係について抽選会(真岡線相互利用事業)を実施し、決定後、各クラブ・真岡鉄道等へ連絡を行った。今後も社会福祉協議会と連携し、随時相談・支援を行っていきたい。シルバー人材センター事務局と打ち合わせ、意見交換を実施した。次年度よりシルバー人材センターでヘルパー有資格者による訪問型サービスAを実施できるよう準備を行った。今後も引き続き情報交換等を実施し、就業機会の拡大に協力していく。 ⑤在宅医療・介護連携推進事業の今年度の実績、次年度の計画等について、芳賀4町会議、運営委員会を実施した。次年度についても、県、芳賀郡1市4町、芳賀郡市医師会等と協力して引き続き事業を推進していきたい。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 健康増進、維持のため、高齢者のいきがづくりは大切だと考える。	総括(第4四半期含)のとおり進めていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	福祉子育て課					
基礎目標		1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	だれもがいさいきと生活できる暮らしの充実					
施策		障がい者の自立と安心して暮らせるまちづくり	進捗状況	100%					
関連する優先目標		—	関連するSDGs	3健康・福祉	10平等				
KPI		芳賀郡障害児者相談支援センター新規相談者数(益子町在住者)	本年度目標値	30	現状値	21人	対前年同期比	+2	人
KPI			本年度目標値		現状値		対前年同期比		
KPI			本年度目標値		現状値		対前年同期比		
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①住み慣れた地域での生活継続が出来るよう支援を行う。 ②福祉人材や担い手の育成を行う。 ③芳賀郡障害児者相談支援センターを周知する。 ④障がい者就労支援施設等からの物資や役務の調達を行う。	①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ③益子町予算説明書(ましこの予算)に、芳賀郡障害児者相談支援センターの案内を掲載。						
	5月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ②県などが主催する研修計画を事業所に提供するとともに、理解促進のため各種学習会等に職員を派遣した。 ④障がい者優先調達方針を定め、年間の調達目標を設定した。						
	6月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ②県などが主催する研修計画を事業所に提供するとともに、理解促進のため各種学習会等に職員を派遣した。						
	7月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ①就労支援部会を開催し、「就労選択支援」について関係機関との認識の共有を行った。						
	8月	①住み慣れた地域での生活継続が出来るよう支援を行う。 ②福祉人材や担い手の育成を行う。 ③芳賀郡障害児者相談支援センターを周知する。 ④障がい者就労支援施設等からの物資や役務の調達を行う。	①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ②③増加する相談に対応するため、芳賀郡障害児者相談支援センター事務局会議において相談員の増員の打ち合わせを行った。						
	9月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ①就労支援部会を開催し、障害者の一般就労に向けた勉強会を行い、関係機関と調整を行った。 ④障がい者優先調達により、民生委員定例会のお弁当を発注した。						
	10月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。						
	11月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。また、運営協議会及び幹事会に出席し、次年度のセンター人員増員や予算の調整を行った。 ①④就労支援部会において、益子町民まつりに出店し、就労支援施設の製品の販路拡大を図った。						
	12月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ④障がい者優先調達により、民生委員定例会のお弁当を発注した。						
	1月	①住み慣れた地域での生活継続が出来るよう支援を行う。 ②福祉人材や担い手の育成を行う。 ③芳賀郡障害児者相談支援センターを周知する。 ④障がい者就労支援施設等からの物資や役務の調達を行う。	①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。						
	2月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。						
	3月		①障害児者相談支援センターと相談支援体制の連携を図り、障がい者のニーズ把握に努めた。 ②芳賀郡障害児者相談支援センター相談員の増員が決定した。 ④障がい者優先調達により、民生委員定例会のお弁当を発注した。調達の促進を図るため、町内の事業者提供可能な物品や役務等について照会した。						

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①毎月複数回センター職員と情報共有を図っていることから連携については問題なく行えているものと考えている。しかしながら、障がい福祉サービスに関する地域資源が不足していることから、地域での生活継続支援が困難な状況もある。 ②芳賀郡市で組織する自立支援協議会において主催する研修等に積極的に参加し情報収集を行う。 ④芳賀郡市で組織する自立支援協議会・就労支援部会において、今年度10月から実施される「選択就労支援」について役員会を開催し、部会としての方向性を固めた。7月に第1回目の部会を開催し、以降3回に渡り勉強会を開催し制度の周知や各機関の連携に向けた話し合いを行っていく。
第2 四半期	①就労支援部会において、7月と9月に会議を行った。当初7月には就労選択支援について理解を深めて行く予定だったが、10月から就労選択支援を行う事業者が芳賀郡内になく興味関心が少ないこともあり、9月には障害者の一般就労に向けた関係機関の役割について、職業センター職員の勉強会及び意見交換会を行った。 ②次期以降、相談員の増員について、中堅相談員獲得のために福祉施設への派遣(委託)依頼および各町負担金積算、要求を行っていく。 ④障害者優先調達によりお弁当を45個発注した。次期以降も民生員定例会でのお弁当は障害者優先調達により発注を行っていく。
第3 四半期	①障害児者相談支援センター運営協議会及び幹事会に出席し、増加する相談対応として専門職を1名増員するために、派遣候補法人との調整を行った。 ④就労支援部会では、益子町民まつりに「真心ステーション」として出店し、就労支援施設の認知及び販路拡大を行った。 ④障害者優先調達によりお弁当を44個発注した。次期以降も民生員定例会でのお弁当は障害者優先調達により発注を行っていく。
総括 (第4 四半期 含)	①②増加する相談に対応するため、相談員の増員を検討した。芳賀郡障害児者相談支援センター運営協議会にて派遣候補法人と調整の結果、専門職を1名派遣していただけることとなり、増員が決定した。障がい福祉サービスに関する地域資源不足については芳賀地区自立支援協議会等と連携し検討していく必要がある。 ②芳賀郡市で組織する自立支援協議会において主催する研修等に積極的に参加し情報収集を行う。 ③関係機関等と連携し、障害児者相談支援センターの周知や、障害者支援に関する普及啓発を行う。 ④障害者優先調達について、庁内各課へ周知を行う。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 障害者が安心して自分らしく地域で生活できるよう進めていただきたい。	芳賀郡障害児者相談支援センターの適切な運営や芳賀地区自立支援協議会との連携により、障害者支援を継続していく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】				課局名	福祉子育て課							
基礎目標		1 幸せを感じる暮らしをつくる		政策	だれもがいきいきと生活できる暮らしの充実							
施策		生活に困ったときの支援や自立の推進		進捗状況	100%							
関連する優先目標		—		関連するSDGs	1 貧困	3 健康・福祉						
KPI		福祉に関する総合窓口の設置		本年度目標値	1	現状値	設置	対前年同期比	設置			
KPI				本年度目標値		現状値		対前年同期比				
KPI				本年度目標値		現状値		対前年同期比				
		①年間計画(スケジュール・工程)				②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①財産を守るための権利保護事務の実施 ②生活困窮者への支援 ③福祉に関する総合窓口の検討			①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	5月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	6月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	7月	①財産を守るための権利保護事務の実施 ②生活困窮者への支援 ③福祉に関する総合窓口の検討			①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	8月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	9月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	10月	①財産を守るための権利保護事務の実施 ②生活困窮者への支援 ③福祉に関する総合窓口の検討			①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							
	11月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。 ③家事関係機関との連絡協議会に出席し、権利擁護にかかる中核機関設置の必要性について確認した。							
	12月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。 ③成年後見制度利用促進に係る地域別情報交換会に出席し、中核機関の担う役割について確認し、設置に向けて検討を進めるとした。							
	1月	①財産を守るための権利保護事務の実施 ②生活困窮者への支援 ③福祉に関する総合窓口の検討			①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。 ③中核機関設置について、県社協と打ち合わせを行った。							
	2月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。 ③中核機関設置について、県社協との打ち合わせの結果を内部で協議・検討した。							
	3月				①相談者への後見人制度の案内を行った。 ②生活保護制度の説明や申請受付、自立相談などの支援を行った。							

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①権利保護については、適宜相談を受け協力を行っている。 ②国・県の制度による支援を継続していく。 ③県が主催する研修会等に積極的に参加する。
第2 四半期	①権利保護については、適宜相談を受け協力を行っている。 ②国・県の制度による支援を継続していく。 ③県が主催する研修会等に積極的に参加する。
第3 四半期	①権利保護については、適宜相談を受け協力を行っている。 ②国・県の制度による支援を継続していく。 ③司法書士や裁判所などからなる「家事関係機関との連絡協議会」や「声援後見制度理想促進に向けた地域別情報交換会」に出席し、権利擁護推進に向けた中核機関の設置が急務であるとの認識だったので、県のアドバイザリー事業等を活用し、設置に向けて検討を開始した。
総括 (第4 四半期 含)	①権利保護については、適宜相談を受け協力を行っている。 ②国・県の制度による支援を継続していく。 ③権利擁護推進に向けた中核機関の設置について、他自治体の事例や設置までのプロセスについて確認を行った。また、町が設置運営をする直営と主に社会福祉協議会へ委託する方法と両方の良い部分をとるハイブリットの3通りの設置方法があり、当町に最適な体制を今後検討していかなければならない。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 今後、より権利擁護に関する相談が増えていくことが予想されるので、中核機関の設置を進めてもらいたい。	権利擁護に関する研修会等への参加や、県のアドバイザー事業の活用等により、町の状況に合った中核機関の設置を検討する。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	町民くらし課								
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	美しい里山・きれいなまちの推進							
施策			脱炭素・脱プラスチック社会の推進	進捗状況	100%							
関連する優先目標			2「住みたいまち」	関連するSDGs	7エネルギー	12つくる・つかう責任	13気候変動	14海の豊かさ	15陸の豊かさ			
KPI			町内電気自動車等保有台数	本年度目標値	120	現状値	121	台	対前年同期比	+12	台	
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比			
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比			
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①電気自動車を充電できる施設を増やす手法の検討。 ②化石燃料に代わる、次世代エネルギー利用の推進。 ④小中学校での環境に関する講座の実施。			②太陽光発電パネル、蓄電池充電器設置、V2H、バイオマスストーブ等の補助について申請受付を開始。							
	5月				②太陽光発電パネル申請5件、蓄電池充電器設置4件							
	6月				②蓄電池充電器設置3件							
	7月	①電気自動車を充電できる施設を増やす手法の検討。 ②化石燃料に代わる、次世代エネルギー利用の推進。 ④小中学校での環境に関する講座の実施。			④益子小水生生物調査(7/4) ④益子小気候変動関する講座(7/10)							
	8月				②太陽光パネル、蓄電池充電器設置1件 ②ゼロカーボン分科会参加(8/6)							
	9月				②太陽光パネル、蓄電池充電器申請1件							
	10月	①電気自動車を充電できる施設を増やす手法の検討。 ②化石燃料に代わる、次世代エネルギー利用の推進。 ④小中学校での環境に関する講座の実施。			④益子西小水生生物調査(10/30)							
	11月				①町民まつりでEV自動車の展示 ③芳賀地区中学校教育研修会で環境施策の講座実施							
	12月				②太陽光パネル:第三四半期5件申請受付 蓄電池充電器:第三四半期6件申請受付							
	1月	①電気自動車を充電できる施設を増やす手法の検討。 ②化石燃料に代わる、次世代エネルギー利用の推進。 ④小中学校での環境に関する講座の実施。			②太陽光パネル:2件申請受付							
	2月				②太陽光パネル:2件申請受付							
	3月				②太陽光パネル:1件申請受付 蓄電池充電器:3件申請受付							

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①公共施設への充電設備設置については、民間事業者が国の補助金を活用して、イニシャルコスト、ランニングコストを抑えて自治体への導入を展開している事例もあるので、情報を入手し、検討可能か判断していく。 ②次世代エネルギー利用推進に関しては、太陽光発電パネル、蓄電池、V2H、ペレットストーブ等の設置補助を継続し、今後も次世代エネルギー利用を推進していく。特に、自家消費型の太陽光蓄電池の申請が多くなってきている。また、今後電気自動車の補助金も検討していく。 ④七井小学校の生物調査が天気の都合により実施できなかった。できなかった時の代替案も検討していく。
第2 四半期	②次世代エネルギー利用推進に関しては、太陽光発電パネル、蓄電池、V2H、ペレットストーブ等の設置補助を継続し、今後も次世代エネルギー利用を推進していく。特に、自家消費型の太陽光蓄電池の申請が多くなってきている。また、今後電気自動車の補助金も検討していく。 ④益子小学校で水生生物調査を行った。また、同校から環境に対する講座の依頼があり、気候変動に関する授業を行った。
第3 四半期	②次世代エネルギー利用推進に関しては、太陽光発電パネル、蓄電池、V2H、ペレットストーブ等の設置補助を継続し、今後も次世代エネルギー利用を推進していく。 ④益子西小学校で水生生物調査を行った。また、芳賀郡中学校教諭対象に気候変動、町環境施策の講座を実施。生ごみ堆肥の学校利用に繋がった。今後も講座の受け入れを広げ、環境分野の教育の機会を拡充したい。
総括 (第4 四半期 含)	②次世代エネルギー利用推進に関しては、太陽光発電パネル、蓄電池、V2H、ペレットストーブ等の設置補助を継続し、今後も次世代エネルギー利用を推進していく。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 小中学生への環境教育を通して、意識醸成を図って いってほしい。	次世代エネルギー促進に関して、太陽光発電パネル、蓄電池、V2H、ペレットストーブ等の設置補助を継続し、今後も次世代エネルギー利用を推進していく。 小中学生への環境教育は、説明に終始せず意識醸成を意識して取組んでいく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	農政課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	美しい里山・きれいなまちの推進						
施策			農山村の景観維持と整備の充実	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs							
KPI			町内電気自動車等保有台数	本年度目標値	120	現状値	121	台	対前年同期比	+12	
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果					
主な取組内容	4月	⑤伐採木を薪材等として再利用できるようなシステムの構築			なし						
	5月				⑤5/19木材コーディネーターによる高峠町有林現地調査						
	6月				⑤6/3造林補助事業補助金 県に交付申請 ⑤6/18造林補助事業 検査 ⑤6/24益子町内の公共建築物等における木材利用促進協定 締結						
	7月	⑤伐採木を薪材等として再利用できるようなシステムの構築			⑤7/1木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について) ⑤7/15木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について)						
	8月				⑤8/27木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について)						
	9月				⑤9/22木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について)						
	10月	⑤伐採木を薪材等として再利用できるようなシステムの構築			⑤10/6とちぎ木づかい促進協議会 ⑤10/8木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について) ⑤10/21芳賀地区森林組合現場確認(高峠町有林)						
	11月				なし						
	12月				なし						
	1月	⑤伐採木を薪材等として再利用できるようなシステムの構築			⑤1/16木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について)						
	2月				なし						
	3月				⑤3/5木材コーディネーター 打合せ(高峠町有林の活用について)						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	⑤伐採木について無償配布を検討していく。 高峠町有林の間伐材を町内公共建築物等の木質化への活用を行う。
第2 四半期	⑤高峠町有林の間伐木を町内公共建築等の木質化に活用するための打合せを実施し、材積量、施業面積、搬出経路等を確認した。引き続き、実施に向けて関係機関と連携していく。
第3 四半期	⑤高峠町有林の間伐材を活用するための打合せを実施した。引き続き、町内公共建築物等の活用に向けて関係機関と連携していく。
総括 (第4 四半期 含)	⑤森林所有者や伐採業者に対し、薪・ペレット・チップ化などの情報を提供し、森林資源の有効活用を促進していく。また、森林経営管理事業により発生する間伐木や枝などの資源化について今後も検討していく。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 資源の活用を進めていただきたい。	木材利用促進協定の締結によって、町内の森林資源を公共施設等に活用する道筋ができた。次年度も引き続き、森林整備を進めるほか、それに伴い発生した森林資源を有効に活用し、美しい里山風景の維持・管理を進めていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【計画・実施状況シート】

シート1【計画・実施状況シート】			課局名	農政課							
基礎目標		1 幸せを感じる暮らしをつくる		政策	美しい里山・きれいなまちの推進						
施策		農山村の景観維持と整備の充実		進捗状況	100%						
関連する優先目標		—		関連するSDGs							
KPI	里山整備実施箇所数(累計)		本年度目標値	42	現状値	47ヶ所		対前年同期比	+3		
KPI	環境保全実施面積(農地)		本年度目標値	81.0	現状値	81.0%		対前年同期比	±0		
KPI			本年度目標値		現状値			対前年同期比			
		①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月			①4/1～4/12 多面的機能支払交付金取組組織への確認検査(25組織) ②4/23里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金説明会 出席 ④木育推進事業 贈呈数8個 ⑥4/1栃木県森林クラウドシステム保守管理業務委託契約							
	5月	①多面的機能支払交付金取組組織への指導助言、新規地区の加入推進 ②山林の草刈り等環境保全活動の推進 ③前沢町有林の整備の検討 ④森林環境譲与税に関する事業の実施 ⑥スマート林業の推進を検討		①5/7多面的機能支払交付金事業広域組織・協議会監査 ①5/22多面的機能支払交付金事業広域組織・協議会総会 ②5/14とちぎの元気な森づくり市町村交付金 交付申請 ②5/23とちぎの元気な森づくり市町村交付金 交付決定 ②5/25小泉自治会林道草刈り実施 ③5/22林道維持管理業務委託(林道生田目線)契約 ④木育推進事業 贈呈数3個							
	6月			①6/11多面的機能支払交付金市町担当者研修 ②6/11県森林整備課 打合せ(里山林整備事業について) ③6/4町有林(前沢・赤法花・北峰)維持管理業務委託契約 ④木育推進事業 贈呈数3個 ⑥6/23森林クラウドシステム業者 打合せ							
	7月	①多面的機能支払交付金取組組織への指導助言、新規地区の加入推進		④木育推進事業 贈呈数8個 ⑥7/23リモートセンシング実演(とちぎ環境・みどり推進機構・県東環境森林事務所)							
	8月	②山林の草刈り等環境保全活動の推進		①8/21多面的機能支払交付金事業 座談会 ④木育推進事業 贈呈数7個							
	9月	③前沢町有林の整備の検討 ④森林環境譲与税に関する事業の実施 ⑥スマート林業の推進を検討		②9/19とちぎの元気な森づくり市町村交付金 追加要望(3団体) ③9/4前沢町有林見学(トチギ環境未来基地、早稲田大学) ④木育推進事業 贈呈数8個 ④9/11事業者と打合せ							
	10月	①多面的機能支払交付金取組組織への指導助言、新規地区の加入推進		①10/24多面的機能支払交付金事業広域組織運営委員会 ④木育推進事業 贈呈数4個							
	11月	②山林の草刈り等環境保全活動の推進 ③前沢町有林の整備の検討		②11/3大郷戸自治会林道草刈り実施 ③11/19町有林(前沢・赤法花・北峰)維持管理業務委託完了 ④木育推進事業 贈呈数4個							
	12月	④森林環境譲与税に関する事業の実施 ⑥スマート林業の推進を検討		①12/3多面的機能支払交付金事業に係る遊休農地の保全管理についての通知 ④木育推進事業 贈呈数2個 ⑥12/9森林GISデータ更新業務委託(五条森林)契約							
	1月	①多面的機能支払交付金取組組織への指導助言、新規地区の加入推進		①長寿命化工事書類等の指導助言 ④木育推進事業 贈呈数11個							
	2月	②山林の草刈り等環境保全活動の推進 ③前沢町有林の整備の検討		①長寿命化工事書類等の指導助言 ①2/16多面的機能支払交付金事業表彰式及び研修会 ④木育推進事業 贈呈数8個 ⑥2/27森林GISデータ更新実施(五条森林)							
	3月	④森林環境譲与税に関する事業の実施 ⑥スマート林業の推進を検討		①長寿命化工事書類等の指導助言 ①長寿命化工事の完了確認 ①3/27県との完了確認検査(交付金本体、推進交付金) ②3/11県検査 ③3/4シルバー人材センター打合せ ④木育推進事業 贈呈数10個							

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1四半期	①令和6年度各地区環境保全会の実績報告、決算等を審査した。また令和7年度事業計画、予算等を確認し、国県補助金の要望を行った。 ②里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金を活用して、益子花の会、小泉里山会が里山保全に向けた活動を行っており、引き続き活動を支援できるよう努める。 ②とちぎの元気な森づくり市町村交付金事業については、里山林整備2.6ha、管理75.8haを予定している。 ③前沢町有林に関しては、林内の下草刈り、除伐及び周辺林道の下草刈りを発注した。随時、見回りを行い適切に管理していく。 ④引き続き、乳幼児に向けた木製品贈呈事業を実施していく。 ⑥森林経営管理制度を効率的に推進していくための手法をシステム業者と検討した。境界確認のためのGNSS機材・タブレット端末の導入について検討していく。
第2四半期	①県協議会と連携して座談会を開催し、保全活動への意識の醸成を行った。引き続き、保全活動への意識の醸成を図っていく。 ②とちぎの元気な森づくり市町村交付事業の追加要望を行った。里山林整備2.9ha。山本2か所、上大羽1か所。引き続き、申請手続き等の支援を行う。 ③森づくり活動を行う団体に前沢町有林を案内し、活用方法について意見等を求めた。引き続き、整備方法等を検討していく。 ④引き続き、乳幼児に向けた木製製品贈呈事業を実施していく。 ⑥引き続き、スマート林業の推進を検討していく。
第3四半期	①下部組織に活動エリア内の遊休農地について通知・説明を行い、今後の活動に関して指導助言を行った。 ②森林整備を新たに始めたいという方から相談を受けた。とちぎの元気な森づくり里山林整備事業の制度を案内したところ、R8年度申請に向けて前向きに検討するとのことだった。今後も制度の周知によって、新規整備箇所を増加につなげていく。 ③受託業者による除伐、下草刈りを実施した。引き続き適切に管理していく。 ④引き続き、乳幼児に向けた木製製品贈呈事業を実施していく。 ⑥森林GISの地域森林計画図(五条森林)の更新を行うための業務を締結した。今後も森林経営を効率化に向けた取組みについて検討していく。
総括(第4四半期含)	①年度末に向け、今年度実施の長寿命化工事について、指導助言、現地確認及び完了検査を行った。 ①2/16の表彰式及び研修会において、写真コンテストでは大沢環境保全会が最優秀賞を受賞し、「わが郷に賑わいを」部門では長堤環境保全会が表彰された。その後、各地区保全会の参加者とともに研修会を受講した。 ①3/27の県の完了確認検査では、交付金本体及び推進交付金ともに大きな指摘事項はなかった。多面的事業に関する次年度の目標として、事務委託先の負担軽減を図るため、報告事務方法や基本的な事業の指針について再認識できるよう指導していきたい。 ②とちぎの元気な森づくり市町村交付事業の検査では、大きな指摘事項はなかった。今後も制度の周知を図り、新規整備箇所の増加につなげていく。 ③3/4に前沢町有林において、シルバー人材センターと枯損木の有効活用について打合せを行った。今後も関係機関と連携し、前沢町有林が町民の憩いの場となるよう整備を進めていく。 ④本事業の実施により、乳幼児が木に触れる機会を創出することができた。乳幼児へ贈呈することで、保護者に対しても地域産材の良さや森林の役割について考えるきっかけを提供できた。令和7年度合計贈呈数76個。 ⑥森林GISの更新により、スマート林業の基盤となるデータを整備することができた。今後もスマート林業を推進し、森林情報の一元管理化及び業務の効率化を図っていく。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降の方針・改善点
総 括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 他機関との連携を図り、整備を進めていただきたい。	次年度以降も引き続き、里山林及び農地整備を行う団体を支援し、美しい里山風景の維持・管理につなげていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課						
基礎目標		1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	美しい里山・きれいなまちの推進					
施策		農山村の景観維持と整備の充実	進捗状況	100%					
関連する優先目標		—	関連するSDGs	15陸の豊かさ					
KPI		里山整備実施箇所数(累計)	本年度目標値	42	現状値	47ヶ所	対前年同期比	+3ヶ所	
KPI		環境保全実施面積(農地)	本年度目標値	81.0	現状値	81.0%	対前年同期比	±0.0%	
KPI			本年度目標値		現状値		対前年同期比		
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	⑤花のまちづくり事業 小宅古墳群 菜の花・桜 4月 ひまわり畑の準備 4月下旬～ 実行委員会の開催 6月 ひまわり祭り 農地転用許可申請 5月 第1回ひまわりサミット会議 5月 マリーゴールド苗配布 6月 ひまわり畑 播種作業 6月 ひまわり祭り 道路占用許可申請 6月(真岡土木事務所)	⑤4/5～13 菜の花・桜まつり(小宅古墳群)。 4/22 ひまわりサミット担当者会議(野木町)。						
	5月		⑤ひまわり祭り 農地転用許可申請。 公共施設等の花装飾(マリーゴールド苗配布)						
	6月		⑤6/9 花のまちづくり実行委員会 ひまわり播種作業(約5ha) ひまわり祭り 道路占用許可申請(真岡土木事務所)						
	7月	⑤花のまちづくり事業 野木町ひまわりフェスティバル 7/19 ひまわり祭りの開催(8/9～8/11) 来場者アンケートの実施 かみのかわサンフラワー祭り 8/23	⑤花のまちづくり事業 野木町ひまわりフェスティバル 7/19						
	8月		⑤花のまちづくり事業 ひまわり祭りの開催 8/9～8/11 (8/15まではひまわり畑開放) 来場者数約34,000人 かみのかわサンフラワー祭り 8/23						
	9月		⑤花のまちづくり事業 Instagramフォトコンテスト審査 来場者アンケート集計						
	10月		⑤花のまちづくり事業 Instagramフォトコンテスト結果発表 生田目地区へフォトスポットの貸し出し 10/7						
	11月		⑤花のまちづくり事業 公共施設等の花装飾(ビオラ苗配布) 11月 ひまわりサミット担当者会議 12月						
	12月		⑤花のまちづくり事業 ひまわりサミット担当者会議 12/3						
	1月	⑤花のまちづくり事業 花のまちづくり代表者会議事前打ち合わせ 1/27 花のまちづくり代表者会議 2/3 菜の花・桜まつり日体大荏原高等学校打ち合わせ 2/26 菜の花・桜まつり周遊促進事業打ち合わせ 3/9 菜の花・桜まつり会場準備 3/16	⑤花のまちづくり事業 花のまちづくり代表者会議事前打ち合わせ 1/27						
	2月		⑤花のまちづくり事業 花のまちづくり代表者会議 2/3 菜の花・桜まつり日体大荏原高等学校打ち合わせ 2/26						
	3月		⑤花のまちづくり事業 菜の花・桜まつり周遊促進事業打ち合わせ 3/9 菜の花・桜まつり会場準備 3/16						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	⑤菜の花・桜まつりについては、比較的天候にも恵まれ、総じて盛況であった。また、日本体育大学荏原高校との連携事業(ドッグランの設置等)も大変好評であった。野木町・上三川町との3町ひまわりサミットについては、今年度も事業を継続して実施することとし、インスタグラムフォトコンテスト等を予定している。
第2 四半期	⑤ひまわり祭りについては昨年度から期間を短縮し、8/9～8/11の3日間の開催となった。イベント終了後、8/15まではひまわり畑を開放し、8/9～8/15の来場者数は約34,000人と1日当たりの来場者数は昨年度より微増となった。また、来場者を対象にアンケートを取り、年齢構成やイベント来場後の行動などの把握に努めた。アンケート結果を分析すると、ひまわり祭りと道の駅ましこで行動を完結させている来場者が多く見られたため、町内への回遊をどのように誘導していくかがこれからの課題である。野木町・上三川町と合同でのフォトコンテストやPRブース設置については、各町での広報をきっかけに別の町に訪れるお客様が多く見られ、一定の効果があったと考えられる。
第3 四半期	⑤インスタグラムフォトコンテストについては、100件以上の応募があり、受賞者あて商品を発送した。 ⑤各施設にピオラ苗の希望数調査を行い、7箇所(1,824株)に配布。希望する施設・数ともに減少にあるため、来年度以降の事業必要性について検討を行っている。今後、配布している施設と調整していく必要がある。 ⑤ひまわりサミット担当学会議については、今年度の事業・監査報告、来年度の事業計画(案)について協議した。今年度配布した瞬間冷却バックは非常に好評であった。来年度のPR方法の検討や開催時期の共有を行った。フォトコンテストについては、継続していく予定。 ⑤生田目地区の住民が整備するコスモス畑の公開にあたり、実行委員会所有の備品(フォトスポット)を貸し出した。今後も支援を継続していく予定。
総括 (第4 四半期 含)	⑤花のまちづくり代表者会議に向けた事前打ち合わせ(1/27)及び代表者会議(2/3)を開催し、令和8年度事業案について協議を行った。その中で、デジタル地域通貨「ましコイン」を活用した周遊促進事業の実施について方向性を示した。 また、菜の花・桜まつりに関しては、日体大荏原高等学校と2月26日に打ち合わせを実施し、地元主催ワークショップへの講師参加や、同校生徒によるインスタントカメラ撮影企画の実施、イベントチラシの作成等について連携を図った。さらに、フォトコンテストについても生徒からの提案を踏まえ、昨年度に引き続き実施することとした。周遊促進事業については、3月9日にデジタル地域通貨協議会と打ち合わせを行い、事業内容に応じたシステム仕様の整理及び実施手法の検討を進め、事業案作成の基礎を整えた。今回の菜の花・桜まつりで実証実験を行い、今後の花畑イベントの周遊施策の検討材料とする。 そのほか、3月16日には亀岡八幡宮里山の会と連携し、菜の花・桜まつり会場の設営準備(テント、椅子、テーブルの設置等)を実施した。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 花見をきっかけにフォトコンテストなどのイベント等などから観光への集客につなげられるような手法で盛り上げていってほしい。	フォトコンテスト等については今後継続し、集客につながるよう周遊施策についても引き続き検討を重ねていきたい。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	町民くらし課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	美しい里山・きれいなまちの推進						
施策			ごみの資源化・減量化の推進	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs	12つくる・つかう責任						
KPI	1日当たりの家庭系ごみの排出量		本年度目標値	350	現状値	436	g	対前年同期比	△4	g	
KPI	リサイクル率		本年度目標値	35.0	現状値	23.2	%	対前年同期比	△1.8	%	
KPI			本年度目標値		現状値			対前年同期比			
			①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①資源物回収団体への奨励金交付、及び資源物ステーション設置補助金の交付。		①前年度第4四半期資源物回収奨励金の交付 回収量:116t、交付件数:63件、交付金額:629,550円 ①生ごみ処理事業回収量:家庭系、14t(全23t)、小型家電回収量:2.2t、廃油回収量:0.2t、エコ土曜日(資源物回収):3.3t、硬質プラスチック回収:0.9t ②環境美化運動の実施:2自治会							
	5月	①生ごみ処理事業、及び使用済小型家電、食用廃油回収等を実施しリサイクルの促進を図る。 ②地域の環境美化運動の支援、及び不法投棄防止への取組み。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、15t(全26t)、廃油回収量:0.2t ②環境美化運動の実施: 46自治会 ②益子環境Weeksの実施(5/18、25)							
	6月	③フードバンクを活用した食品ロス削減に向けての検討。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、15t(全24t)、廃油回収量:0.2t、エコ土曜日(資源物回収):4.5t ① ゴミステーション設置補助金交付:3件 資源物ステーション設置補助金交付:3件 ②益子環境Weeksの実施(6/15、22、27)							
	7月	①資源物回収団体への奨励金交付、及び資源物ステーション設置補助金の交付。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、18t(全27t)、廃油回収量:0.3t ②ふるさとの川清掃 内町・栗崎(7/6)漁協清掃(7/12)西明寺(7/20)							
	8月	①生ごみ処理事業、及び使用済小型家電、食用廃油回収等を実施しリサイクルの促進を図る。 ②地域の環境美化運動の支援、及び不法投棄防止への取組み。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、17t(全27t)、廃油回収量:0.2t、エコ土曜日(資源物回収):1.9t、小型家電回収1.3t、硬質プラスチック回収:0.5t ②生ごみ処理施設見学会の開催(8/7) ②ふるさとの川清掃 城内(8/3)							
	9月	③フードバンクを活用した食品ロス削減に向けての検討。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、17t(全27t)、廃油回収量:0.2t							
	10月	①資源物回収団体への奨励金交付、及び資源物ステーション設置補助金の交付。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、14t(全27t)、廃油回収量:0.2t エコ土曜日(資源物回収):3.2t、小型家電回収1.6t、硬質プラスチック回収:0.8t							
	11月	①生ごみ処理事業、及び使用済小型家電、食用廃油回収等を実施しリサイクルの促進を図る。 ②地域の環境美化運動の支援、及び不法投棄防止への取組み。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、13t(全24t)、廃油回収量:0.1t ③社協によるフードバンク事業において、役場での食品預かりに協力。							
	12月	③フードバンクを活用した食品ロス削減に向けての検討。		①生ごみ処理事業回収量:家庭系、15t(全26t)、廃油回収量:0.2t エコ土曜日(資源物回収):3.2t、小型家電回収2.0t、硬質プラスチック回収:1.3t ③フードバンク食品無料配布会を実施。							
	1月	①資源物回収団体への奨励金交付、及び資源物ステーション設置補助金の交付。		①生ごみ処理事業回収量:家庭用、14t(全22t) 廃油回収量:0.1t							
	2月	①生ごみ処理事業、及び使用済小型家電、食用廃油回収等を実施しリサイクルの促進を図る。 ②地域の環境美化運動の支援、及び不法投棄防止への取組み。		①生ごみ処理事業回収量:家庭用、12t(全19t) 廃油回収量:0.2t エコ土曜日(資源回収):40.3t 小型家電回収:1.7t 硬質プラスチック回収:0.7t							
	3月	③フードバンクを活用した食品ロス削減に向けての検討。		①生ごみ処理事業回収量:家庭用、14t(全22t) 廃油回収量:0.2t							

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①資源物回収については、引き続き自治会や育成会に回収品目の追加を依頼し、資源物回収の利点についてもPRし、継続的に実施していただけるように努めていく。 ①回収リサイクル率の向上につながるよう広報等で周知を図っていく。 ②多くの自治会等の協力で実施することができた。今後は個別で実施してくれるところもあるため、引き続き袋等の支援をしていく。 ②環境Weeksについては参加団体の減少がみられる。他団体への協力や、新規参加者の増加について検討する。 ③社会福祉協議会と今年度も実施する方向で打合せを早急に行いたい。詳細については、打合せを重ねながら検討していきたい。
第2 四半期	①10月に町民向けに生ごみ堆肥化施設の見学会を実施し資源循環についてのPRを図る。 ①7/6に益子小学校で行った環境関係の授業の際に生ごみ回収のPRを行った。 ②小学生向けに生ごみ処理施設の見学会を行いPRを行った。 ②ふるさとの川の環境美化で自治会で百目鬼川の草刈り清掃活動を行った。 ②11月に実施予定の環境美化運動の実施方法について検討する(実施に協力してくれる自治会にお願いする形。)
第3 四半期	②11月23日に環境美化運動を実施。(実施に協力してくれる自治会にお願いする形。) ③フードバンク食品配布会では、1日で予約が埋まり、需要に供給がおいついていない。本当に必要としている方の見極めも課題と思う。
総括 (第4 四半期 含)	①生ごみ処理事業の収集量が減少してきている。減少の原因を調査するとともに、一般家庭向けにPRやイベント等での広報を行っていく。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 今後も自治会や町民への働きかけを継続して行ってほしい。	生ごみ処理事業の収集量が減少してきている。減少の原因を調査するとともに、自治会や町民に向けたPRやイベント等での広報を行っていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	総務課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	安心して暮らせる地域づくりの推進						
施策			日常を守る災害対策の推進	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs	—						
KPI			風水害で避難が必要となる自治会(地区)の防災計画策定	本年度目標値	4	現状値	5	自治会	対前年同期比	+2	自治会
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
KPI				本年度目標値		現状値			対前年同期比		
①年間計画(スケジュール・工程)				②実施内容・実績・成果							
主な取組内容	4月	①地区防災計画策定支援 ②非常時に使用する資機材・備蓄品の整備 ④防災アプリや町公式LINEの周知 ⑤災害時のドローン活用			①新規策定自治会の支援について検討 ②資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	5月				①新規策定自治会の支援について検討 ②資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	6月				①新規策定自治会の支援について検討 ②資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	7月	①地区防災計画策定支援 ②非常時に使用する資機材・備蓄品の整備 ④防災アプリや町公式LINEの周知 ⑤災害時のドローン活用			①地区防災計画策定について1自治会に説明(城内自治会) ②資機材・備蓄品の発注 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	8月				①地区防災計画策定会議(城内自治会) ②資機材・備蓄品の納品と検収 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤防災訓練						
	9月				①地区防災計画策定完了(城内自治会) ②資機材・備蓄品の納品と検収 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	10月	①地区防災計画策定支援 ②非常時に使用する資機材・備蓄品の整備 ④防災アプリや町公式LINEの周知 ⑤災害時のドローン活用			①新規策定自治会の支援について検討 ②さらなる資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	11月				①新規策定自治会の支援について検討 ②さらなる資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	12月				①新規策定自治会の支援について検討 ②さらなる資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	1月	①地区防災計画策定支援 ②非常時に使用する資機材・備蓄品の整備 ④防災アプリや町公式LINEの周知 ⑤災害時のドローン活用			①新規策定自治会の支援について検討 ②さらなる資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	2月				①新規策定自治会の支援について検討 ②さらなる資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						
	3月				①地区防災計画策定について1自治会に説明し、策定完了(東田井自治会) ②さらなる資機材・備蓄品の整備について検討 ④転入者に対する防災アプリの周知 ⑤未実施						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①新たな自治会を増やせるよう支援を実施していきたい。 ②避難所の環境整備として、軽トラックに搭載できる移動式トイレと組立式のシャワーセットを購入し、避難者に個室空間を提供することにより、避難者のストレスの軽減に資する。また、避難所の停電対策としてポータブル電源を購入し、避難所の安全管理と快適性向上を図る。 ④転入者に対し、防災アプリや町公式LINEでの周知を行った。 ⑤災害がないため未実施。
第2 四半期	①城内自治会に対し地区防災計画策定に向けた説明を行い、その後の策定会議を経て計画が完成した。今後修正があれば、自治会と調整し実施していく。 ②避難所の環境整備として、8月にポータブル電源を納品、9月に軽トラックに搭載できる移動式トイレと組立式のシャワーセットを納品し、避難所の安全管理と快適性向上を図る。 ④転入者に対し、防災アプリや町公式LINEでの周知を行った。 ⑤防災訓練でドローンを活用し、災害時の情報収集や孤立集落(立入り困難地域)の状況確認を行った。
第3 四半期	①本年度目標値は達成したため、新たな自治会を増やせるよう支援を実施していきたい。 ②本年度の予定していた資機材や備蓄品の整備は目標を達成したため、今後は、さらなる充実に向けて必要な資機材や備蓄品を検討していきたい。 ④転入者に対し、防災アプリや町公式LINEでの周知を行った。 ⑤災害がないため未実施。
総括 (第4 四半期 含)	①本年度は、目標としていた取組を達成することができた。今後は新たな自治会の増加に向けて支援を進めていきたい。 ②資機材や備蓄品については計画どおり整備が完了したため、次年度以降はさらなる充実を図るべく必要な整備を検討していきたい。 ③転入者への周知として、防災アプリや町公式LINEを活用した情報提供を実施した。 ④大規模災害の発生はなかったものの、防災訓練ではドローンを活用し、災害時の情報収集や孤立集落(立入り困難地域)における状況確認の手法を実践することができた。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 引き続き、災害に対しての備えを徹底してほしい。	災害に備え、防災訓練や備蓄・防災資機材の充実など、いつ発生するかわからない災害に備えていく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【 計画・実施状況シート 】			課局名	総務課							
基礎目標			1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	安心して暮らせる地域づくりの推進						
施策			防犯・交通安全の意識の高揚	進捗状況	100%						
関連する優先目標			—	関連するSDGs	3健康・福祉						
KPI			刑法犯発生件数	本年度目標値	45	現状値	75件	対前年同期比	△14	件	
KPI			交通事故発生件数(人身)	本年度目標値	15	現状値	17件	対前年同期比	△6	件	
KPI			特殊詐欺発生件数	本年度目標値	0	現状値	1件	対前年同期比	±0	件	
			①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果					
主な取組内容	4月	①④交通安全教室の実施 ①防犯灯設置 ③青色防犯パトロールの実施 ④特殊詐欺等注意喚起 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 ④免許返納事業の実施			①防犯灯設置 5基(新規:1、蛍光灯→LED:4) ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 5件 ④免許返納 5人						
	5月				①④交通安全教室 園児 2回75人 ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 3件 ④免許返納 7人						
	6月				①④交通安全教室 園児 4回160人 ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 2件 ④免許返納 3人						
	7月				①④交通安全教室 園児 2回70人 ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 4件 ④免許返納 3人						
	8月				①防犯灯設置 14基(新規:6、蛍光灯→LED:5、LED→LED:2、水銀灯→LED:1、移設:1) ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 2件 ④免許返納 4人						
	9月				①防犯灯設置 4基(蛍光灯→LED:1、LED→LED:3) ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 3件 ④免許返納 4人						
	10月				①④交通安全教室 園児 1回40人 ①防犯灯設置 10基(新規:2、LED→LED:7、水銀灯→LED:1) ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 4件 ④免許返納 3人						
	11月				①④交通安全教室 園児 2回70人 ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 1件 ④免許返納 5人						
	12月				①④交通安全教室 園児 1回20人 ①防犯灯設置 4基(新規:4) ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 5件 ④免許返納 4人						
	1月				①④交通安全教室 園児 6回216人、その他 1回60人 ①防犯灯設置 4基(新規:1、蛍光灯→LED:2、LED→LED:1) ③青色防犯パトロール実施 ④免許返納 1人						
	2月				①④交通安全教室 園児 4回140人、その他 3回210人 ①防犯灯設置 5基(新規:4、LED→LED:1、撤去:1) ③青色防犯パトロール実施 ④免許返納 6人						
	3月				①④交通安全教室 園児 6回169人 ①防犯灯設置 1基(LED→LED:1) ③青色防犯パトロール実施 ④特殊詐欺対策電話機購入補助 9件 ④免許返納 2人						

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①④ 交通安全教室等については、継続して行うことで交通事故防止へつながると考える。 交通事故発生件数は、6件(5月末)対前年比 減4件となっている。 ①③④防犯灯の設置や青色防犯パトロールを継続して行うことで、犯罪抑制に効果があると考ええる。 刑法犯の発生件数は24件(5月末)対前年比 減7件となっている。
第2 四半期	①④ 交通安全教室については、担当の交通教育指導員が長期病休となり、当初の計画どおりの実施が困難となった。4月～7月は真岡市の交通教育指導員や真岡警察署による代替措置で対応したが、8月以降は調整が難しく、教室は実施できなかった。 交通事故発生件数は、13件(8月末)対前年比 減1件となっている。 ①③④防犯灯の設置や青色防犯パトロールを継続して行うことで、犯罪抑制に効果があると考ええる。 刑法犯の発生件数は39件(8月末)対前年比 減16件となっている。
第3 四半期	①④ 交通安全教室については、真岡市の交通教育指導員や真岡警察署による代替措置で対応。 交通事故発生件数は、16件(11月末)対前年比 減6件となっている。 ①③④ 防犯灯の設置や青色防犯パトロールを継続して行うことで、犯罪抑制に効果があると考ええる。 刑法犯の発生件数は70件(11月末)対前年比 減10件となっている。
総括 (第4 四半期 含)	①④担当の一時的な減少により、当初の計画どおりの実施が困難となった。代替措置により一定の啓発効果を得られたものの、通年を通じた取組としては不十分であった。 交通教育指導員の不在時でも安定的に実施できるよう、関係機関との連携や教材の活用など、代替的な体制を事前に整備し、継続的に啓発活動を行える仕組みを構築していきたい。 交通事故発生件数は、17件(12月末)対前年比 減6件となっている。 ①③④防犯灯の設置や青色防犯パトロールを継続して行うことで、犯罪抑制に効果があると考ええる。 刑法犯の発生件数は75件(12月末)対前年比 減14件となっている。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 町民全体の防犯意識向上のため、継続してほしい。	町民全体の防犯・交通安全の意識向上のため、啓発活動や関係機関と連携した防犯対策を継続して実施していく。

第3期ましこ未来計画推進シート

R7(2025)

シート1【 計画・実施状況シート 】

シート1【計画・実施状況シート】			課局名	学校教育課						
基礎目標		1 幸せを感じる暮らしをつくる	政策	安心して暮らせる地域づくりの推進						
施策	防犯・交通安全の意識の高揚		進捗状況	100%						
関連する優先目標	—		関連するSDGs	3健康・福祉						
KPI	刑法犯発生件数		本年度目標値	45	現状値	75	件	対前年同期比	△14	件
KPI	交通事故発生件数(人身)		本年度目標値	15	現状値	17	件	対前年同期比	△6	件
KPI	特殊詐欺発生件数		本年度目標値	0	現状値	1	件	対前年同期比	±0	件
	①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果						
主な取組内容	4月	①スクールガード・リーダー委嘱状交付 ①毎月、スクールガード・リーダーより活動報告書の提出・確認		①スクールガード・リーダー委嘱状交付、スクールガード報告依頼(4/1)						
	5月	①各小中学校へスクールガード名簿提出依頼、ボランティア保険加入処理 ①スクールガード・リーダー連絡協議会・育成講習会の出席者確認報告 ①令和7年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金交付申請		①4月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(5/7) ①スクールガードの活動保険加入処理(5/26) ①地域ぐるみ学校安全体制整備推進事業費補助金交付申請(5/29)						
	6月			①5月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(6/13)						
	7月			①6月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(7/11)						
	8月	①毎月、スクールガード・リーダーより活動報告書の提出・確認 ①次年度の地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業実施調査 ①益子町通学路安全対策推進協議会開催にあたり、各小中学校、スクールガード・PTA等に通学路の点検を行ってもらい、新たな危険箇所の申請依頼		①7月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(8/20)						
	9月			①8月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(9/4) ①令和8年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業の実施予定報告(9/8)						
	10月	①毎月、スクールガード・リーダーより活動報告書の提出・確認 ①益子町通学路安全対策推進協議会開催予定 各小・中学校、スクールガードリーダー、真岡土木事務所、真岡警察と共に通学路の危険箇所の合同点検実施。また前年度の対策実施後の効果把握。 対策一覧表・対策箇所図を作成・公表、関係機関で認識共有。		①益子町通学路安全対策推進協議会開催(10/9) ①9月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(10/15)						
	11月			①10月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(11/17)						
	12月			①11月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(12/19)						
	1月	①毎月、スクールガード・リーダーより活動報告書の提出・確認		①12月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(1/19)						
	2月	①スクールガード装備品(信号灯等)不足分購入・配布 ①新小学1年生へ防犯ブザー購入、1日入学時に配布 ①小学校1日入学時、保護者へスクールガード募集案内通知配布 ①「広報ましこ(おしらせ版)」にて、スクールガード募集案内周知		①1月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(2/9) ①小学校1日入学時、保護者へスクールガード募集案内通知配布 ①広報ましこお知らせにスクールガード募集案内掲載(2/28)						
	3月	①スクールガード・リーダーへ謝金の支払い処理 ①次年度のスクールガード・リーダー継続確認 ①令和7年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金実績報告提出		①2月分スクールガード・リーダー活動報告書受理(3/5) ①令和7年度地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業費補助金実績報告提出(3/5) ①スクールガード装備品(ベスト)購入 ①スクールガード・リーダー謝金の支払い処理・次年度継続確認(3/9) ①広報配布時自治会回覧にてスクールガード募集案内チラシ配布(3/31)						

シート2【 四半期検証シート 】

	③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等
第1 四半期	①令和7年度のスクールガード数は52名、平均年齢は62歳である。 子や孫が新1年生でスクールガードに加入する方が多い。引き続き新規登録者確保に取り組んでいく。 益子町内4小学校1日入学時に、全保護者宛に新規募集案内通知を配布予定。
第2 四半期	①益子町通学路安全対策推進協議会を次期四半期に開催予定。各校に危険箇所についての提出を依頼している。 協議会では、様々な立場の方に意見を聞き、通学路の現状把握に努めたい。
第3 四半期	①10月9日、令和7年度益子町通学路安全対策推進協議会を開催。 今年度新たに申請のあった5箇所の現場検証を実施。その後、事業主体を中心に対策内容を協議した。 また、昨年度までに視察・対策検討済みの76箇所について、事業主体ごとに現時点での対策進捗状況報告を行い情報共有ができた。 様々な立場の方々による意見交換は大変役に立ち、通学時の現状詳細を十分に把握することができた。
総括 (第4 四半期 含)	①2月上旬の各小学校入学説明会時に、新規スクールガードの勧誘チラシ配布を実施。 また2月末の町広報お知らせ版、3月末の各自治会回覧にて勧誘チラシを配布し周知活動に努めた。 新規加入者を確保するため、今後も周知活動を行っていく。 ①益子町通学路安全対策推進協議会 対策一覧表・対策箇所図について、2月12日に公表。

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての 次年度以降への方針・改善点
総括	継続性について A:このまま継続 ○ B:改善・見直し C:廃止・終了 意見・提言 毎日、子ども達の安全を守るスクールガードさんには頭が下がる思いである。今後も地域で子どもを守る仕組みを維持されていくことをお願いしたい。	スクールガードの新規登録者数を増やすことは、地域の安全を守る取組みにつながるため、町広報紙やSNS等各媒体を活用し、スクールガードの周知活動に努めたい。